様式1一1

大学等名	湘北短期大学
プログラム名	湘北数理・データサイエンス・AI教育プログラム

プログラムを構成する哲学

リテラシ	ーレベ	ルの	プロク	ラムを	を構成する授業科目について			
① 教育プログラムの修了要件					学部・学科によって、修了要件は木	1違する	5	
② 対象となる学部・学科名称								
総合ビジネス・情報学科、生活プロデュー	-ス学科							
』 ◎ 」 妥 FF	一タサィ	エンス	入門)	」の2 ^達	単位を取得すること。			
必要最低科目数・単位数 1 科目		2	単位		履修必須の有無 令和6年度以前より、履修することが必必	真のプロ?	グラムとし	して実施
	n Socie	ety 5.0	, , デー	タ駆動	型社会等)に深く寄与しているものであり、それが	自らの)生活,	と密接
こ結びついている」の内容を含む授業科目	, 0001	, cy 0.0		フ·明に 32.		<u> </u>		-шіх
授業科目	単位数	_	1-1	1-6	授業科目 単位数	必須	1-1	1-6
情報リテラシー(データサイエンス入門)	2	0	0	0		-	<u> </u>	
						-		
						<u> </u>		
	タの活用]領域.	は非常	常に広	範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する	有用7	なツー	ルに
なり得るもの」の内容を含む授業科目 授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目 単位数	必須	1-2	1-3
情報リテラシー(データサイエンス入門)	2	O	0	0	1文末1十口 年世級	必须	1 2	1 3
						<u> </u>	<u> </u>	
						-	-	
	 	- 田車	! ないおこ	! =+h	└────────────────────────────────────	· .¬=	+	- ^
g) 「様々な」 ルスケア等)の知見と組み合わせることで値						227	, TA	
授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目 単位数	必須	1-4	1-5
情報リテラシー(データサイエンス入門)	2	0	0	0				
						-		
						-	\vdash	
⑦「活用に当たっての様々な留意事項(EL を守る上での留意事項への理解をする」の					AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報	报漏 洩	等、デ	ータ
授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目 単位数	必須	3-1	3-2
情報リテラシー(データサイエンス入門)	2	0	0	0				
	_					 	 	
	+					<u> </u>		

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
情報リテラシー(データサイエンス入門)	2	0	0	0	0						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

) プログラムを構成	するE	受業の内容 しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅう しゅう
授業に含まれている内容	容・要素	講義内容
(1)現在進行中の社 会変化(第4次産業革 命、Society 5.0、デー タ駆動型社会等)に深	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット: 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(6回目) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化: 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(6回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会: 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(6回目)
く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-6	・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、強化学習、生成AIなど): 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(6回目) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど): 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(8回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広節囲であって、日	1-2	・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど: 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(6回目) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など): 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(6回目) ・データのオープン化(オープンデータ): 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(10、12、13回目)
常生活や社会の課題 を解決する有用なツー ルになり得るもの	1-3	・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など): 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(8回目)・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど: 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(8回目)・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など: 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(8回目)
(3)様々なデータ利活 用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適に (流通、製造、金融、	1-4	・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見など: 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(6、7回目) ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化など: 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(11、14回目)
サービス、インフラ、公 共、ヘルスケア等)の 知見と組み合わせるこ とで価値を創出するも の	1-5	・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案): 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(9~15回目) ・教育、芸術、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介: 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(8回目)

(4)活用に当たっての 様々な留意事項 (ELSI、個人情報、 データ倫理、Al社会原 期等)を考慮し、情報	3-1	・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues): 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(8回目) ・個人情報保護: 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(8回目) ・データ倫理: 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(8回目) ・データパイアス: 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(8回目) ・データパイアス: 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(8回目) ・生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成、偽情報や有害コンテンツの生成・氾濫 など): 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(5回目)
則寺/ど行風し、情報 セキュリテイや情報漏 洩等、データを守る上 での留意事項への理 解をする	3-2	・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介:「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(5回目)
(5)実データ・実課題 (学術データ等を含む) を用いた演習など、社 会での実例を読材として、「データを読む、説 明する、扱う」といった 数理・データサイエン ス・AIの基本的な活用 法に関するもの	2-1	・データの種類(量的変数、質的変数): 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(7回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値): 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(7回目) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値=最頻値でないことが多い): 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(7回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値、外れ値: 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(7回目) ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡): 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(7回目) ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列: 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(9~15回目) ・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない): 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(7回目)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図): 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(9~15回目) ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成、プレゼンテーションなど): 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(2、3回目)
	2-3	・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法):「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(7、9~15回目) ・データの集計(和、平均):「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(2、3、7、9~15回目) ・データの並び替え、ランキング:「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(7、9~15回目) ・データ解析ツール(スプレッドシート、BIツール):「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(9~15回目) ・表形式のデータ(csv):「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(2、9~15回目)

① プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- ・現代社会において必要となる数理・データサイエンス・AIの基礎的素養、知識、技能を主体的に身につけ、日常の生活や仕事等の場
- で実践的に活用することができる。
 ・数理・データサイエンス・AIの知識、技能の恩恵を享受できるようになるとともに、これらを活用するにあたっては、公平性・公正性の観点を常に持ち、人間中心の適切な判断や説明ができるようになる。

様式1一2

大学等名	湘北短期大学
プログラム名	湘北数理・データサイエンス・AI教育プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

) 教育プログラムの修了要件					学部・学科によって、修]違する	5	
②対象となる学部・学科名称									
保育学科									
 〗修了要件									
2年次通年必修科目「保育のための」	CT·DX入門	11」の	1単位:	を取得	 すること。				
V = 2 (**************************************		1 ,,, ,,						
	科目	1	単位		履修必須の有無 令和6年度以前より、履修				
) 現在進行中の社会変化(第4次産業 - 結びついている」の内容を含む授業科	革命、Socie 4目	ty 5.0	、デー	タ駆動	型社会等)に深く寄与しているものであ	5り、それが 	自らの)生活。 	と密持
授業科目	単位数		1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
保育のためのICT・DX入門 II	1	0	0	0				\vdash	-
								_	_
L	 ニータの注用		 	当に広	毎囲でもって ロヴナチわ社会の課題		左田 :	t:vi_	11.1-
り得るもの」の内容を含む授業科目	ーータの活用	1限以.	JIJ JF i	おに仏		1で件入りつ	1年 用 /	ょりー.	ルー
授業科目	単位数		1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
保育のためのICT・DX入門 II	1	0	0	0					
							-	<u> </u>	-
								 	_
 」「様々なデータ利活用の現場における						 サービス、イ	ンフラ	· 、公井	└── {, ^
レスケア等)の知見と組み合わせること			_	_		1 324 41 384			
授業科目 保育のためのICT・DX入門 II	単位数	必須	1-4 O	1-5 O	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
MH 07/20707101 BXX(1)11	- '								
							<u> </u>		_
								-	-
)「活用に当たっての様々な留意事項	(ELSI、個人	情報、	データ	· · · · · · · · ·	AI社会原則等)を考慮し、情報セキュ	リティや情幸	 最漏洩	<u>ーー</u> 等、デ	<u></u> タ
守る上での留意事項への理解をする	の内容を含	む授	業科目						
授業科目	単位数		3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
保育のためのICT・DX入門 II	1	0	0	0		-		\vdash	\vdash
									<u> </u>
			_	_				├	-
			L	L				Ц	Щ_

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
保育のためのICT・DX入門 II	1	0	0	0	0						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑪ プログラムを構成する授業の内容

D <u>プログラムを構成</u>	する技	受業の内容
授業に含まれている内	容・要素	講義内容
(1)現在進行中の社 会変化(第4次産業革命、Society 5.0、デー 夕駆動型社会等)に深	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット: 「保育のためのICT・DX入門II」(1回目) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化: 「保育のためのICT・DX入門II」(1回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会: 「保育のためのICT・DX入門II」(1回目) ・人間の知的活動とAIの関係性: 「保育のためのICT・DX入門II」(8回目)
く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-6	・AI最新技術の活用例(生成AIなど):「保育のためのICT・DX入門II」(8回目) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど):「保育のためのICT・DX入門 II」(8回目)
(2)「社会で活用されているデータ」が「データの活用領域」は非常に広節囲であって、日	1-2	・調査データ、実験データなど: 「保育のためのICT・DX入門 II 」(3.4回目) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など): 「保育のためのICT・DX入門 II 」(10回目)
に広報四であって、日本学生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-3	・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など): 「保育のためのICT・DX入門II」(2回目)
(3)様々なデータ利活 用の現場におけるデータ利活用事例が示さ れ、様々な適用領域 (流通、製造、金融、	1-4	・非構造化データ処理:言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など: 「保育のためのICT・DX入門 II 」(8、10~15回目) ・自動化技術: 「保育のためのICT・DX入門 II 」(15回目)
(流道、製造、金融、 サービス、インフラ、公 共、ヘルスケア等)の 知見と組み合わせることで価値を創出するも の	1-5	・データサイエンスのサイクル(データの取得・管理・加工): 「保育のためのICT・DX入門 II 」(1回目) ・教育、サービス等におけるデータ・AI利活用: 「保育のためのICT・DX入門 II 」(8回目) 事例紹介: 「保育のためのICT・DX入門 II 」(8回目)

(4)活用に当たっての 様々な留意事項 (ELSI、個人情報、 データ倫理、AI社会原 則等)を考慮し、情報	3-1	・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues): 「保育のためのICT・DX入門 II 」(9回目) ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護: 「保育のためのICT・DX入門 II 」(1回目) ・AIサービスの責任論: 「保育のためのICT・DX入門 II 」(9回目) ・データ・AI活用における負の事例紹介: 「保育のためのICT・DX入門 II 」(9回目) ・生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成、偽情報や有害コンテンツの生成・氾濫 など): 「保育のためのICT・DX入門 II 」(9回目)
則等/を存慮し、情報 セキュリティや情報漏 洩等、データを守る上 での留意事項への理 解をする	3-2	・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介:「保育のためのICT・DX入門 II」(9回目)
	2-1	・データの種類(量的変数、質的変数): 「保育のためのICT・DX入門II」(4回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値): 「保育のためのICT・DX入門II」(4回目) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値=最頻値でないことが多い): 「保育のためのICT・DX入門II」(4回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値): 「保育のためのICT・DX入門II」(4回目)
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む) を用いた演習など、社 会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった 数理・データサイエン ス・AIの基本的な活用 法に関するもの	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図): 「保育のためのICT・DX入門II」(4~7回目) ・データの比較(条件をそろえた比較): 「保育のためのICT・DX入門II」(5~7回目) ・不適切なグラフ表現(チャードジャンク、不必要な視覚的要素): 「保育のためのICT・DX入門II」(5回目) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など): 「保育のためのICT・DX入門II」(5回目) ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成、プレゼンテーションなど): 「保育のためのICT・DX入門II」(7回目)
AINAY OUV	2-3	・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法): 「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(3回目) ・データの集計(和、平均): 「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(5~7回目) ・データの並び替え、ランキング: 「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(5~7回目) ・データ解析ツール(スプレッドシート、BIツール): 「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(5~7回目) ・表形式のデータ(csv): 「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(5~7回目)

① プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- ・現代社会において必要となる数理・データサイエンス・AIの基礎的素養、知識、技能を主体的に身につけ、日常の生活や仕事等の場で実践的に活用することができる。
 ・数理・データサイエンス・AIの知識、技能の恩恵を享受できるようになるとともに、これらを活用するにあたっては、公平性・公正性の観点を常に持ち、人間中心の適切な判断や説明ができるようになる。

様式2

湘北短期大学

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

②大学等全体の男女別学生数

年度(和暦) 令和6

女性 523 人 男性 119人

(合計 642 人)

③履修者・修了者の実績

(令和6年5月1日時点)

履修率 35% 31% %0 0 #DIV/0i 0 #DIV/0i 0 #DIV/0i 履修者数 中 中 154 77 0 令和元年度 履修者数 修了者数 履修者数 修了者数 履修者数 修了者数 履修者数 修了者数 履修者数 修了者数 履修者数 修了者数 令和2年度 令和3年度 令和4年度 令和5年度 142 74 0 令和6年度 154 0 440 250 270 知 引 引 220 125 135 人 引 順 導 驴牛数 321 136 185 総合ビジネス・情報学科 学部 学科名称 生活プロデュース学科 保育学科

0 #DIV/0!	0 #DIV/0!	0 #DIV/0!	0 #DIV/0!	i0/AIQ;	0 #DIV/0!	0 #DIV/0!	0 #DIV/0!	0 #DIV/0i	0 #DIV/0i	i0/AIQ;	i0/AIQ;	0 #DIV/0!	fDIV/0!	24%
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	# 0	231
														0
														0
														0
														0
														0
														0
														0
														0
														0
														0
														216
														231 2
														096 C
														480
														642
														丰
														ŲΠ

		1 SE fefe Ja	様式3
		大学等名	湘北短期大学
	教育の質・履修者数を向上させるた	めの体制	・計画について
1	全学の教員数 (常勤) 34 人	(非常勤)	82 人
	プログラムの授業を教えている教員数		人
(3)	プログラムの運営責任者 (責任者名) 高橋洋	(役職名)	学長
4	プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・系数理・データサイエンス・AI教育推進ワーキンググル・		,
	数理・ケーダリイエンへ・AI 教育推進 ノーインテテル	<u> </u>	
	(責任者名) 高嶋章雄	(役職名)	リベラルアーツセンター長
5	プログラムを改善・進化させるための体制を定める規	則名称	
	数理・データサイエンス・AI教育推進ワーキンググル-	一プ設置要	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
6	体制の目的		
	湘北短期大学数理・データサイエンス・AI教育推進ワ	ーキングク	ブループは、以下の業務を所管
	する (1)当教育プログラムの具体的な内容に関する協議・	■檢討	
	(2) 当教育プログラムの計画(当教育プログラムにお	いて身に作	
	件、開設される授業科目、授業の方法、及び内容等)	の策定並	びに実施体制の構築、及びそ
	れらの公表 (3)学生に対し当教育プログラムの履修を促す取組の	カ協議・検	計 及 <i>1</i>
	(4) 当教育プログラムについての点検及び評価、その		
			3
7	具体的な構成員		
	高嶋章雄 リベラルアーツセンター長(責任者)		
	矢沢隆 教務·学生部部長(副責任者) 小林良向 IR室長		
	泉屋咲月 生活プロデュース学科		
	小笠原大輔、保育学科		
	北野俊之 教務·学生部 高橋博子 教務·学生部		

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	24%	令和7年度予定	67%	令和8年度予定	80%		
令和9年度予定	90%	令和10年度予定	100%	収容定員(名)	960		
_ · · · · · · - · _							

具体的な計画

湘北短期大学は総合ビジネス・情報学科、生活プロデュース学科、保育学科からなる総合短期大学である。各専門分野での実務において重要な役割を果たすと考え、全学科で数理・データサイエンス・AIに関する科目を、必修科目として位置づけている。

総合ビジネス・情報学科および生活プロデュース学科においては、1年次前期の必修科目として「情報リテラシー(データサイエンス入門)」を開講する。PCを操作する内容も含むため、全15回のオンデマンド科目とし、自由な時間に何度でも動画を見直しながら学習を進められるようにしている。

保育学科においては、基本的なPCスキルを学ぶ1年次通年隔週で開講する「保育のためのICT・DX入門 I 」の発展として、2年次通年隔週で開講する「保育のためのICT・DX入門 II 」を開講している。本教育プログラムが対象とする科目は「保育のためのICT・DX入門 II 」とする。令和6年度以降の全入学生が本プログラムの履修対象学生となる。総合ビジネス・情報学科と生活プロデュース学科の学生は、令和6年度に対象科目の履修を終え、保育学科の学生は、令和7年度に対象科目の履修を終えることとなる。

収容定員ではなく在籍者数を母数とした場合の履修率は、令和7年度以降100%となる。

(9)) 字部・字科に関係なく希望する字生全員が受講可能となるよっな必要な体制・取組等
	本教育プログラムを構成する「情報リテラシー(データサイエンス入門)」および「保育のための
	ICT・DX入門Ⅱ」は、各学科の卒業要件に含まれる必修科目として開講している。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

入学後のガイダンスや学生向けの情報ポータルにおいて、本教育プログラムの内容を周知している。

11)	できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制
	本教育プログラムを構成する全科目は、講義資料をLMSで管理・提供している。「情報リテラシー(データサイエンス入門)」は、学外のインストラクショナルデザインの専門家に協力を仰ぎ、50件の動画を中心としたオンデマンド科目として、学生が繰り返し学習可能な環境を提供している。
	Cいる。
12)	授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み
	対面で実施する科目は授業中や授業後に質問を受け付けている。オンデマンド科目はLMSを通じて質問を受け付けるとともに、担当する常勤教員がオフィスアワーを中心に対面での質問を受け付けている。また、本学にはPCやIT機器を利用する上でわからないことを学生が気軽に
	相談できる「ITコンシェルジュ」が常駐しており、学修を妨げない範囲でITに関するトラブル解決 を行っている。

様式4

		1.3.2
大学等名	湘北短期大学	

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

数理・データサイエンス・AI教育推進ワーキンググループ	
(責任者名) 高嶋章雄	(役職名) リベラルアーツセンター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の	
学内からの視点	
プログラムの履修・況	数理・データサイエンス・AI教育推進ワーキンググループおよび教務・学生課において本プログラムの履修・単位修得 特状 状況を分析している。令和6年度終了時点で、総合ビジネス・情報学科および生活プロデュース学科の学生が受講でき る「情報リテラシー(データサイエンス入門)」が終了している。単位修得率は87.9%(203/231名)であった。このうち、開 講期中または期後に休学もしくは退学した学生を除くと単位修得率は98.5%(203/206名)となる。
学修成果	担当教員はLMSを通じて学生の進捗を常に把握しており、担当教員および数理・データサイエンス・AI教育推進ワーキンググループにおいて本プログラムの履修・単位修得状況を分析している。「情報リテラシー(データサイエンス入門)」は、全15回(動画・課題提出・小テストを含む全94レクチャー)のオンデマンド科目であり、LMSへのログイン状況、動画閲覧状況、課題提出状況を教員が常にモニタリングし、進捗の芳しくない学生にはメール等でリマインドした。学修成果を確認する小テストを25件設け、テストをクリアしない限り先のレクチャーに進めない仕様としているため、全レクチャーに取り組んだ学生は一定の学修成果を有していると考えられる。
学生アンケート等を 学生の内容の理解	教務・学生課において本教育プログラム受講者全員に対して授業改善アンケートを実施している。また、リベラルアーツセンターにおいて、オンデマンド科目の受講スタイルに関するアンケートを実施している。数理・データサイエンス・AI教 育推進ワーキンググループにおいて各アンケート結果を分析している。令和6年度の「情報リテラシー(データサイエンス入門)」においては、授業改善アンケートの設問「この授業の目的とする知識や技能、考え方が身についたか」「この授業を通じて自分が以前より成長できたか」において、4段階評価で肯定的な意見が、それぞれ92%を超える結果となった。学生の自己評価として、各自が内容を理解できたと考えられる。
	じた 令和6年度の「情報リテラシー(データサイエンス入門)」の授業改善アンケートの設問「授業の内容は興味深いもので推奨 あったか」において、88.4%の肯定的な意見が得られた。後輩等への推奨度を直接調査したものではないが、多くの学生にとって履修する価値のある内容として受け入れられたと考えられる。
全学的な履修者数率向上に向けた計成・進捗状況	

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の 進路、活躍状況、企業等 の評価	本教育プログラムを修了した学生が卒業するのは令和7年度末が初めてとなり、進路についても今後判明する状況である。
	本学卒業生がターゲットとする就職先の内、事務職やSEはもとより、人と人とのコミュニケーションが重要視される接客業や保育の現場においても、本プログラムの学修内容が重要視されている。過去の来店データに基づく顧客との対面コミュニケーションの円滑化や、午睡センサーを利用した園児の安全確保が、質の高いサービス提供の事例が増えつつある。生成AI関連技術の急速な発展も注視しつつ、学生にとって有益な情報を提供できるようプログラムの内容を、数理・データサイエンス・AI教育推進ワーキンググループにおいて継続点検する。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本教育プログラムは、各学科必修科目のみで構成されており、もともと興味を持っていない学生も一定数含まれる。そのため、産業界からの視点だけでなく、学生目線の身近な事例なども散りばめて、数理・データサイエンス・AIに関する知識やスキルを自然と理解できるような授業を展開している。結果として上述した複数の設問において肯定的な意見が得られたと考えられる。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	オンデマンド科目においては、授業設計段階から学外のインストラクショナルデザイナーに協力を仰ぎ動画制作や課題設定を構成した。受講スタイルに関するアンケートから、オンデマンド形式に関して79.5%の肯定的な意見が得られた。授業改善アンケート等で得られる情報や、本教育プログラム以外の授業内容・スタイルも参考にし、分かりやすさの観点から授業およびプログラムを、数理・データサイエンス・AI教育推進ワーキンググループにおいて継続点検する。





● シラバス検索

履修計画についての説明

履修計画(PDF)

検索条件設定 (特に明記のない限り、テキスト項目は中間一致検索) 開講年度 2024 ~ 講義コード 担当教員 科目名(英語 講義名称 情報リテラシー(データサイエン 名) 学則科目名称 対象学科等 選択なし 講義開講時期 選択なし 学年 選択なし キーワード 以上の条件で検索

該当件数 1件(1-1 件目を表示)

該当件数 1件	§ 当件叙 「件(「一 」件目を表示 <i>)</i>							
<前ページ 1 次ページ>								
	講義 コード	講義名称	学則科目名称	講義開講時期	担当教員	科目名(英語名)	対象学科等	学年
選択	R6LA0401		情報リテラシー(デー タサイエンス入門)	前期	高嶋 章 雄	Information Literacy	リベラルアーツ科 目 (1年)	1年
	<前ページ 1 次ページ>							



シラバス参照

講義名	情報リテラシー(データサイエンス入門)			
講義開講時期	捐講時期 前期			
科目名 (英語名)	語名) Information Literacy			
対象学科等 リベラルアーツ科目(1年)				
学年	1年			

担当教員

氏名

◎ 髙嶋 章雄

秋山 純一

単位数	2単位
授業方法	講義
ナンバリング	110 (リベラルアーツ基礎)
カリキュラムマップ(強い関連性がある学修成果)	S2, B4, BC1
カリキュラムマップ (関連性がある学修成果)	\$3, \$4, BC2, BC5, BC7, BC14, L1, L3, L5
SDGs	内容を扱う: 4.9
実務経験の区分	_
教員の実務経験について	_
実務経験の授業への活かし方	_
授業で取り入れているアクティブラーニングの要素について	_
ICTの活用について	動画教材を用いたオンデマンド科目です。 一部eラーニングシステムで課題を提出します。
履修条件、準備等	学内または家庭のPCを利用した作業を個人で実施できること。
授業の具体的到達目標	・大学生活に必要となるICTを活用し、コミュニケーションおよび情報の取得・創出・管理・発信ができるようになります。 ・情報を扱う上で注意すべき点を、セキュリティ・モラル・著作権に関して説明できるようになります。 ・データサイエンス・AIとは何かを説明し、社会においてどのように活用されているかを例示することができるようになります。
授業の概要	全15回のオンデマンド科目です。 前半 (1~8回) は、情報の取扱い・データサイエンス・AIに関する知識習得、後半 (9~15回) はデータ活用のための実践演習となります。 高度に情報化され「創造の時代」と言われるSociety 5.0の今日、AIやデータサイエ ンスの活用は不可欠となっています。現代社会におけるコンピュータやインターネッ ト、さらには情報の役割と意義について考え、学生および社会人として必要な知識と 技能を身につけます。

授業計画表

	授業計画	授業時間外の学習(予習・復習の内容)	担当者
1	大学生活で利用する情報システム1	ポータルサイト/LMS/メール/zoomに関する作業(4時間)	高嶋章雄
2	大学生活で利用する情報システム2	Google Workspace (ドライブ・ドキュメント・スプレッドシート・スライド) に関する作業 (4時間)	高嶋章雄
3	大学生活で利用する情報システム3	レポートの書き方/Googleフォームに関する作業 (4時間)	高嶋章雄
4	情報の取り扱い1	コンピュータ/情報理論/インターネットに関する作業 (4時間)	高嶋章雄
5	情報の取り扱い2	情報モラル/情報セキュリティ/著作権に関する作業 (4時間)	高嶋章雄
6	社会におけるデータ・AI利活用1	ビッグデータ・IoT・5G/機械学習・AIに関する作業 (4時間)	高嶋章雄

7	社会におけるデータ・AI利活用2	基本統計量/代表的なデータ解析に関する作業 (4時間)	高嶋章雄
8	データ・AI利活用における留意事項	データ・AI活用事例・分類/データと倫理に関する 作業(4時間)	高嶋章雄
9 □	データ活用実践1	スプレッドシートの基本操作(ショートカット、カレンダー、グラフ)に関する作業(4時間)	高嶋章雄
10	データ活用実践2	オープンデータ、クレンジング、グラフに関する作業 (4時間)	高嶋章雄
11	データ活用実践3	数式のオートフィル、関数、ばらつきの可視化に関する作業 (4時間)	高嶋章雄
12	データ活用実践4	大量データ、オートフィルタ、ヒストグラムに関する作業 (4時間)	高嶋章雄
13	データ活用実践5	オープンデータの組み合わせ・散布図に関する作業 (4時間)	高嶋章雄
14	データ活用実践6	相関分析・相関分析によるレコメンデーション・単 回帰分析に関する作業 (4時間)	高嶋章雄
15	データ活用実践7	質的データとクロス集計に関する作業(4時間)	高嶋章雄
試験等	試験は実施しない		

成績評価	動画の視聴状況・eラーニングの取り組み・課題提出状況により単位取得の可否を決定します (グレードによる評価 (AA~C) は行いません) 。
課題(試験やレポート等)へのフィードバック	各回の内容ごとに、担当教員がメールや口頭で質問を受け付けます。 大学のICT環境に関する質問は、図書館ICTコンシェルジュでも受け付けます。

テキスト

	書名	著者	ISBN	出版社
1				
2				
3				

参考文献

	書名	著者	ISBN	出版社
1	大学一年生のための情報リテラシ	小棹理子 他	9784621302798	丸善出版株式会社
2	基礎からわかる情報リテラシー	奥村晴彦, 森本尚之	9784297117108	技術評論社
3	はじめてのAIリテラシー	岡嶋裕史,吉田雅裕	9784297120382	技術評論社

備考

授業の動画配信、課題の提示から一定期間内に課題を提出すること。原則として、提出期限後の提出は評価しませんので注意してください。 動画の視聴や課題提出をもって出席とみなします。 オフィスアワーを設定します。時間は教員の研究室扉に貼りだします。 大学のICT環境に関する質問は、図書館ICTコンシェルジュでも受け付けます。 必要に応じて対面での質問会を実施します。湘北ポータルにて連絡します。

ルーブリック

リベラルアーツ科目のみ

	評価項目	すばらしい(100%)	惜しい(50%)	残念(0%)
1				
2				
3				
4				
5				

<u>ウインドウを閉じる</u>

% 湘北短期大学 Shohoku Web Service



● シラバス検索

履修計画についての説明

履修計画(PDF)

検索条件設定 (特に明記のない限り、テキスト項目は中間一致検索)

開講年度	2025					
講義コード			担当教員			
講義名称	保育のためのICT・DX入門Ⅱ		科目名(英語 名)			
学則科目名称			対象学科等	選択なし		‡
講義開講時期	選択なし	+	学年	選択なし	\$	
			キーワード			
				クリア		

該当件数 4件(1-4 件目を表示)

	<前ページ 1 次ページ>							
	講義 コード	講義名称	学則科目名称	講義開講時期	担当教員	科目名(英語名)	対象学科等	学年
選択	R6312001	保育のためのICT・DX入 門 II	保育のためのICT・DX入 門 II	通年	大内 里紗	Introduction to ICT and DX for childcare	保育学科	2年
選択	R6312002	保育のためのICT・DX入 門 II	保育のためのICT・DX入 門 II	通年	大内 里紗	Introduction to ICT and DX for childcare	保育学科	2年
選択	R6312003	保育のためのICT・DX入 門 II	保育のためのICT・DX入 門 II	通年	大内 里紗	Introduction to ICT and DX for childcare	保育学科	2年
選択	R6312004	保育のためのICT・DX入 門 II	保育のためのICT・DX入 門 II	通年	大内 里紗	Introduction to ICT and DX for childcare	保育学科	2年
			<前ページ	1 次ページ>				





シラバス参照

講義名	保育のためのICT・DX入門Ⅱ
講義開講時期 通年	
科目名 (英語名)	Introduction to ICT and DX for childcare
対象学科等	保育学科
学年	2年

担当教員

氏名

◎ 大内 里紗

単位数	1単位
授業方法	演習
ナンバリング	510 (専門科目基礎)
カリキュラムマップ(強い関連性がある学修成果)	P2
カリキュラムマップ(関連性がある学修成果)	S1, S4, P1
SDGs	到達目標:4, 内容を扱う:3,8
実務経験の区分	_
教員の実務経験について	_
実務経験の授業への活かし方	_
授業で取り入れているアクティブラーニングの要素について	グループワーク
ICTの活用について	Eラーニングの活用
履修条件、準備等	各自 USBメモリー (2GB 以上) を準備し、毎回の授業に持参すること。USBメモリーについては授業内で説明する。
授業の具体的到達目標	データに基づき、データを根拠とした情報や考えを伝えたり、情報を読み取る能力と して情報リテラシーを身につける。
授業の概要	情報処理の入門としてコンピュータ操作の初歩を学ぶ。とくに、保育現場での活用を前提とした実践的な内容を重点的に扱う。デジタル社会の中で生活者及び保育者として必要なデータサイエンスに関連した基礎を習得する。AIに関する知識を学び、その扱いにおける基本的な知識の習得を目指す。 ※この科目は、本学の初年次教育科目(多様な学生の能力を伸長させる取り組み)として位置づけられています。

授業計画表

	授業計画	授業時間外の学習(予習・復習の内容)	担当者
1	データベース・ ICT ・ AI の 活用領域の広がりや、 最新技術に ついて 学ぶ	ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット、データサイエンスのサイクル(データの取得・管理・加工)、データ倫理等に関する作業(1時間)	大内 里紗
2	Excel の基本(基本操作、計算式、表の作成、グラフの作成など)	データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など) 等に関する作業 (1時間)	大内 里紗
3	Excel の基本 実データを用いた情報/データリテラシーの基礎 「待機児童数の可視化」(Excelによる図表の作成、提出)	調査データ、実験データなど、データの取得(機械 判読可能なデータの作成・表記方法) 等に関する 作業(1時間)	大内 里紗
4	Excel 実データに基づく情報/データリテラシー演習「成長曲線・散布図」①(データの種類と読み取り、作成)	データの種類、データの分布と代表値、代表値の性質の違い、データのばらつき、データ表現等に関する作業(1時間)	大内 里紗
5	Excel 実データに基づく情報/データリテラシー演習「グラフの考察」①(図表の作成・考察)	データ表現、データの比較、グラフ表現、データの 集計、データの並び替え、ランキング、データ解析 ツール、表形式のデータ(csv)等に関する作業(1 時間)	大内 里紗

6	Excel 実データに基づく情報/データリテラシー演習「グラフの考察」②(図表の作成・考察)	データ表現、データの比較、データの集計、データの並び替え、ランキング、データ解析ツール、表形式のデータ (csv) 等に関する作業 (1時間)	大内	里紗
7	Excel 実データに基づく情報/データリテラシー演習「グラフの考察」③(図表の作成・考察、PDF化、印刷)	データ表現、データの比較、データの集計、データの並び替え、ランキング、データ解析ツール、表形式のデータ (csv) 等に関する作業 (1時間)	大内	里紗
8	データ・AI利活用の最新動向 データ・AI利活用のための技術	人間の知的活動とAIの関係性、AI等を活用した新しいビジネスモデル、非構造化データ処理(言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など)等に関する作業(1時間)	大内	里紗
9	データ・AIを扱う上での留意事項 データを守る上での留意事項 (生成AIに関する留意事項を含む)	倫理的・法的・社会的課題、生成AIの留意事項、情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例等に関する作業(1時間)	大内	里紗
10	非構造化データの理解①「非構造化データとは」	構造化データ、非構造化データ処理(言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理)等に関する作業(1時間)	大内	里紗
11	非構造化データの理解②「言語処理」(テキスト解析)	非構造化データ処理(言語処理、画像/動画処理、 音声/音楽処理)等に関する作業(1時間)	大内	里紗
12	非構造化データの理解③「音楽処理」(音楽編集)	非構造化データ処理(言語処理、画像/動画処理、 音声/音楽処理)等に関する作業(1時間)	大内	里紗
13	保育ドキュメンテーション①「画像処理」を含む	非構造化データ処理(言語処理、画像/動画処理、 音声/音楽処理)等に関する作業(1時間)	大内	里紗
14	保育ドキュメンテーション②「画像処理」を含む	非構造化データ処理(言語処理、画像/動画処理、 音声/音楽処理)等に関する作業(1時間)	大内	里紗
15	保育ドキュメンテーション③「まとめ」	非構造化データ処理(言語処理、画像/動画処理、 音声/音楽処理)等に関する作業(1時間)	大内	里紗
試験等			大内	里紗
	155 346 . 1			

	授業中に実施した課題 (Word、Excel、Power Pointを活用したもの) の出来とタッチタイピング記録表を基準とし、そこに授業態度等を加味して総合的に評価する。
課題(試験やレポート等)へのフィードバック	課題の評価について希望者には公表し、諸々の説明を行う

テキスト

	書名	著者	ISBN	出版社
1				
2				
3				

参考文献

	書名	著者	ISBN	出版社
1				
2				
3				

ルーブリック

リベラルアーツ科目のみ

	評価項目	すばらしい(100%)	惜しい(50%)	残念(0%)
1				
2				
3				
4				
5				

Ⅳ 教育課程表

総合ビジネス・情報学科

2024年度入学生

大学 1			I I		100 -	AR 13	- Dil					,			.0						
Y					技:	美 租	_		ピ	経	シ ョ	オ			ブ	ブ	科				
日本語の		1 	コ					単	ジ	THI	ツ		<i>年</i> 日	БĦ		Ι.,	ı	開	講	年	次
		<u> X</u>			≕帯	油				埋	プ	イ	覾	留	グ		l l				
分 次 2 2 2 2 2 2 2 2 2]	授 業 科 目	叩丹	1円	実	位	\wedge			ス			ラ		の				
2		^							ス			ワ	NIZ.	274	177			1	华	2	华
株 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本		分	l E		義	習		粉	情	金	×	ì	尤	子		Ι,		24	4%	2/:	44
22LA00 日本			'					90	却	融	ン)]7			ゲ		分				ı
B			201 100				抆		_		^			0		Ť	-1-1-		别	别	州
検 221.A02 日本語リアラシー 1 (名) ○ 2 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		必			-			-	-	_	_			0	_	_					
A	IJ	修修	\vdash		-			-	0	0	0	0	0		0	0	_		\cup		
日		ļ															_			\cup	
## 221A10 生涯スポーツと健康 II		科			\cup																
## 22IA10 生産スポーツと健康 II (留)	^`	目					-	-	_	_	-			0	-	_					
P		群					-	-	0	0	0	0	0		0	0	_		\cup		
Risk Asia 和北 A タートアップでミナー	ラ		 				\cup	-						_			_				\cup
Rel Aloo 社会生活のための基礎知識					-			-	-	<u> </u>	-	_	_		_	-	_				
Table Ta					-			-	-	-	-	-	-	-	-	-	_		-		$\stackrel{\sim}{\square}$
	ル	選			_			-	-	<u> </u>		-	_	_	_	-	_		$ \cup $		\mathbb{P}
大			\vdash		-			-	-	-	-	-	_	-	_	-	_		\vdash		_
R	ア	l Les	\vdash		-			-	-	-	-	-	_		_	-		_		\Box	_
科 25LA35 メ デ ィ ア 論 B ○ 2 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		択			_				_	-	-	-	-	-		-			\square		\mathbb{P}
科 SILA75 ファッション文化 論 ○ 2 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 応 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	,				_			-	_	-	<u> </u>	<u> </u>	_	_	_	<u> </u>	_			\cup	
Rel_A01 日本の食文化 2 0 0 0 2 0 0 0 2 0 0	[171	\vdash		-			-	-	-	_	_	_	_	_	_	_	_	-		$\frac{1}{2}$
R6LA03 住 環 境 デ ザ イ ン ○		枓			_			-	_	-	_		_		_	_	_		_		-
日 R6LA07 体験から学ぶ身近な心理学 ○ 2 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	ツ				_			-	_	-		_	-		-	_	_				_
R6LA09					_			-	_	0	-	-	-	-	_	-	_			せす	<u> </u>
R6LA11 湘 北 リ ベ ラ ル ア ー ツ I	es.		\vdash		-			-	-	0		<u> </u>	-	-	_	-	_	<u> </u>			$\overline{0}$
	科				_			-	_	-	-	-	-		_	-	_		開講		_
R3LA80 暮らしの中のテクノロジー 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0		71.76	\vdash		_			-	_	-	_	-	_	_	_	_	_	\circ	_	0	L
R3LA80 暮らしの中のテクノロジー	I	群	\vdash		_			-	\circ	0	0	\circ	\circ	\circ	_	0	_		0		0
国 26GC01 ジェネラル・イングリッシュ I			\vdash		-			-	_	-	-	-	-	0	_	<u> </u>	_		-		-
E 26GC02 ジェネラル・イングリッシュ I ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○					0			2	Ŭ		Ŭ	<u> </u>	-	0	_		_		0		0
B						-		1	_	-	_	_	_		_	_	_		_		
際 R6GC20 エッセンシャル・イングリッシュ 0 1 0 0 0 応 0 R6GC30 イングリッシュ・ライティング 0 2 0 0 基 0 26GC40 アドヴァンス・イングリッシュ II 0 1 0 0 0 0 発 0 30GC50 T O E I C (初級) A 0 1 0		玉				-		-	0	0	0	0	0		0	0	_	_	0		
R6GC30 イングリッシュ・ライティング								2	L					0			_	\circ			
TROCOSO		陸						-	\circ	0	\circ	\circ	\circ		\circ	0				\circ	
理 26GC41 アドヴァンス・イングリッシュII 0 1 0 0 0 0 発 0 2 0		1517	R6GC30			0		2									_	\circ			
R		7111				_		-	_	-	-	-	-	_	-	_				0	
解 30GC50 T O E I C (初 級) B 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		埋	\vdash		$oxed{oxed}$	_		H	_	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	_	0	_	<u> </u>	_				0
A R6GC60 海 外 研 修			\vdash		$oxed{oxed}$			-	_	_	_				_	_			_		0
A R6GC60 海 外 研 修		解				_		-	_	_	_	-	_	_	_	_			開講		<u> </u>
R6GC70 中国語(基礎)	1								_	-	<u> </u>	-			_	_	_				
R6GC70 中国語(基礎)		科			$oxed{oxed}$		0	-		-	-	-	-	-	-	_	_			_	
R4GC71 韓 国 語 0 1 0 0 0 基 0 R4GC90 ベーシック・ビジネス英語 2 0 0 0 発 0 イン 26IS02 春季インターンシップ(長期)(留) 0 2 0 0 0 応 0 26IS04 春季インターンシップ(短期)(留) 0 1 0 0 0 応 0 26IS04 春季インターンシップ(短期)(留) 0 1 0 0 0 応 0 R5IS01 夏季インターンシップ(長期) 0 1 0 0 0 応 0 B5IS02 夏季インターンシップリテラシー 0 1 0 0 0 応 0 26IS05 インターンシップリテラシー(留) 0 1 0 0 0 基 0			\vdash			0	$ldsymbol{ld}}}}}}$	-	-	0	0				_	_					<u></u>
R4GC71 韓 国 日 日 日 日 日 日 日 日 日	1	Ħ	\vdash			0		1	_	0	0	0	_		-	_			開講	せす	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
イ 26IS02 春季インターンシップ(長期)(留) ○ 2 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		П	\vdash		$oxed{oxed}$	0		-	_	0	-	-	_	_	_	-	_		Щ		<u> </u>
ン Ap					0					_		-	_	0							0
科タ 1 26IS04 春季インターンシップ (短期) (留) 0 1 0 0 0 0 0 応 0 応 0 26IS04 春季インターンシップ (短期) (留) 0 1 0 0 0 0 0 応 0 R5IS01 夏季インターンシップ (長期) 0 2 0 0 0 0 0 0 0 応 0 R5IS02 夏季インターンシップ (短期) 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 26IS05 インターンシップリテラシー (留) 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		1			$ldsymbol{f eta}$		0		0	0	0		0		0	0			0		
26IS04 春季インターンシップ(短期)(留) 0 1 0 応 0 R5IS01 夏季インターンシップ(長期) 0 2 0 0 0 0 応 0 R5IS02 夏季インターンシップ(短期) 0 1 0 0 0 0 応 0 26IS05 インターンシップリテラシー(留) 0 1 0 0 0 0 基 0 26IS05 インターンシップリテラシー(留) 0 1 0 基 0 基 0		ン			$oxed{oxed}$		_	-			$oxed{oxed}$			0		_					0
1 26IS04 春季インターンシップ (短期) (留) ○ 1 ○ 応 ○	#	科タ	26IS04				0	1	0	0	0	0	0		0	0			0		
R5ISO2 夏季インターンシップ(短期) O 1 O O O O O D D D D D D D D D D D D D]	26IS04				_	-						0							0
目シ R5ISO2 夏季インターンシップ(短期) 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0			R5IS01	夏 季インターンシップ(長期)				2	0	0	0	0	0		0	0					
ッ 26IS05 インターンシップリテラシー(留) 0 1 0 0 基 0			R5IS02				0	1	\circ	0	0		0	0	0	_		0			
201303 インダーンシップリアプラー(留) 0 1 0	1		26IS05	インターンシップリテラシー	_			1	0	0	0	0	0		0	0			0		
】 ^ブ	1		26IS05	インターンシップリテラシー(留)	0			1						0			基				0
		ブ	30IS06	インターンシップティーチング		O		1	Ō	Ō	0	Ō	O		Ō	Ō	発				0

					المتحدث	JIL 7:1	s mil									,					—
Table Ta					授	美 榸	三別		ド	経	ショ	オ			プ	メ	科				
大き			コ				実	単	32		l	フ			ㅁ	デ	,,,	開	講	年	次
日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本		区				No. I	験			理	l	1	観	留	ガ	イ	目				
## P			1	松 * 1 1 1	講	緷	•	ملار	ネ		~	i ' i			l	ア					
P			l l	按 兼 科 日				177	ス	•	ネ	^				デ	()	1	年	2	年
RBBU01 私のキャリアデザイン 1 2 2 2 3 3 3 3 3 3 3		分			3,4-	ব্যব	習			金	ジ	ワ	光	学	1		区	1	'	_	'
RSBUO 私のキャリアがザイン		<i>)</i>	ド		義	習		数	情	312.	メ	1		1	レン	ادا		前	後	前	後
## A 250102 本・リアデザイン 0 0 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0			,						報	融	レ	カ			ガ		分				
Bignor 1	-		DEDITO				12	0	\vdash		ı,					Ť	++-		791	791	791
# 1850.05		45			_			-	-	0	0	0		0		-	-	\circ			
## 2810/94 キャリアブラッシュアップ ○ 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		办L	26BU02	キャリアベーシック(SPI)	\circ			2	\circ	\circ	\bigcirc	\bigcirc	\circ		\circ	\bigcirc	基		\circ		
### Page 100 2 キャリアブラッシュアップ		業	R5BU05	私の就職活動プランニング		\circ		1	\circ	0	\circ	0	\circ		\circ		応		\circ		
対		*	26BU04	キャリアブラッシュアップ	0			2	\circ	0	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	発				\circ
RSBL10		カ			_									_	-		-				
Pick R5BL07 仕事に役立つに演性 (本語) B						_		-	_	-	Ť	_	_	-	_	-	-	$\overline{}$			
R5B107		育			\vdash	–				-	-	_	_	_	-	-					
Page Page					\vdash	-	\vdash			_	-	-		_	-	<u> </u>	_				\cup
Page Page		成	R5BU07	* * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	\Box	\circ	Ш	1	\bigcirc	\cup	\cup	\circ	\circ	\circ	\circ	<u> </u>				\circ	$ldsymbol{ldsymbol{ldsymbol{\sqcup}}}$
HeBL09 PC 活用 ペーシック I		±√.	R5BU07	仕事に役立つPC演習(応用)B		\circ		1	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ					
## PRBUIL PC 活用 ペーシック T		科	R3BU08	証券外務実践	0			2	\circ	0	0	0	0	\circ	0	0	資				\circ
## PRBUIL PC 活用 ペーシック T	I	в	R6BU09	PC 活 用 ベ ー シ ッ ク I				1	0	0	0	0	0	0	0	0		0			
## 265250 商品・流通の皮膜 I (留) 0 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	I	П						-	_	$\overline{\bigcirc}$	_	-	_	Ť	_	_					
# 265250 商品・流通の基礎 I (留) ○ 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0							\vdash				_	_	_		_		_				
### Page 1		盐			_		\vdash	-	9		\mathbb{H}		9	6		\mathbb{P}		\vdash			\vdash
## Parameters		^			-		$\vdash \vdash$	-			<u> </u>			9		Щ	-	\vdash		\cup	$\vdash \vdash$
# P		涌			-	Ш	Ш	-	0	0	0	0	0		0	0	_	\Box	Ш		
Page 1		~	235070	ビジネス社会の基礎I(留)	0			2			L			0			基	L		0	
(6) 235077 企業と財務の基礎I(留) ○ 2 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		Ď,	235077	企 業 と 財 務 の 基 礎 I	0			2	0	0	0	0	0		0	0	基	0			
終	専	~_	235077	企業と財務の基礎Ⅰ(留)				2						0			基			\cap	
科		修							0	0		0	0		0	0					
P					\vdash	-	\vdash	-	_	<u> </u>	-	_	_		-	-	-				\vdash
P		科				-	\vdash	-		_	_	_	-	_		-	_		\cup	_	$\vdash\vdash\vdash$
R45090 情報科学の基礎 1 0 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 基 0 0 0 0 0 0 0 0		·				\circ		1	_	<u> </u>	<u> </u>	_	0	_		-				\bigcirc	
Page		目	225111			\circ		1	\odot	\odot	\odot	\odot	0	0	\odot	\odot	基				\circ
### Parameters	l l		R45090	情報科学の基礎	\circ			2	0	0	0	0	0	0	0	0	基	\circ			
## 235075 ビジネス社会の基礎Ⅱ ○ 2 0 0 0 0 0 1 基 ○ 1 基 ○ 25075 ビジネス社会の基礎Ⅱ (留) ○ 2 0 0 0 0 0 1 基 ○ 1 基 ○ 25077 企業と財務の基礎Ⅱ (留) ○ 2 0 0 0 0 0 0 1 基 ○ 25077 企業と財務の基礎Ⅱ (留) ○ 2 0 0 0 0 0 0 0 1 基 ○ 25077 企業と財務の基礎Ⅱ (留) ○ 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	 		265060	商品・流通の基礎Ⅱ	0			2	0	0	0	0	0				基		0		
## 235075 ビジネス社会の基礎Ⅱ ○ 2 0 0 0 0 0 1 基 ○ 1 基 ○ 25075 ビジネス社会の基礎Ⅱ (留) ○ 2 0 0 0 0 0 1 基 ○ 1 基 ○ 25077 企業と財務の基礎Ⅱ (留) ○ 2 0 0 0 0 0 0 1 基 ○ 25077 企業と財務の基礎Ⅱ (留) ○ 2 0 0 0 0 0 0 0 1 基 ○ 25077 企業と財務の基礎Ⅱ (留) ○ 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0			265060	商品・流通の基礎Ⅱ(留)				2						0			基				\circ
### A P A P A P A P A P A P A P A P A P					-			-	0	0	0	0	0				_				Ť
数					-			-	9				9	0		\vdash			$\overline{}$		
利用 235079 企業と財務の基礎Ⅱ(留) ○ 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		共			-		\vdash	-						0		\vdash		\vdash			\vdash
有 225425 ビジネス文書演習								-	0	0	0	0	0						\circ		
育 2251/25 情報システム ○ 2000 ○ 0000 ○ 0000 □ 00000 □ 000000	纵		235079		\circ			2						0			_				\circ
百 225080 初 級 簿 記 II ○ 2 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 基 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	叙		225425	ビジネス文書演習		\circ		1	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	資		\circ		
百 225080 初 級 簿 記 II ○ 2 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 基 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○			225175	情報システム	0			2	0	0	0	0	0	0	0		応			0	
育 225085 初 級 簿 記 Ⅱ ○ 2 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		通	225080					2.	0	0			\bigcirc	\bigcirc			-				П
月 選 265200 ビジネス会計論 公 2000 <					_			-		_	_	-			_	_	-	Ť			\Box
Bar Ba					-		\vdash	-	_	-	-	-	-	-	_	-	-	\vdash	Н		
B					-		\vdash	-	_	-	-	-	-	-	<u> </u>	-		\vdash		\cup	
R65825 調 利 事 務 入 門 〇 2 〇 0 ○ 0 ○ 0 ○ 0 ○ 0 ○ 0 ○ 0 ○ 0 ○ 0 ○ 0	育	255			_	\vdash	\vdash	\vdash	-	\vdash	\vdash	-	\cup	\cup	\cup	\square	-				\cup
R55315 販 売 士 総 論 II ○ 2 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		푱						-	_			_				Ш	-			_	
R55335 接 客 サ ー ビ ス 論 I			R55310		0			2	0	0	0	0	0	0	0	0	資			0	
R55335 接 客 サ ー ビ ス 論 I			R55315	販 売 士 総 論 Ⅱ	0			2	0	0	0	0	0	0	0	0	資			0	
A R55340 接客サービス論 II ○ 2 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○					0			2	\circ	0	(0)	0	0	0	0		-	\circ			
PR65395 ビジネスマナー基礎 2000000000000000000000000000000000000		坦			-			-	-	<u> </u>	-	-	-		-	- −		Ė			П
AH 265410 情報プレゼンテーションの基礎 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	71	D/C			_		\vdash	-	_	_	-	_	_		-	<u> </u>	-		\vdash		
PAH 225490 世界遺産論(留) 2000000000000000000000000000000000000	科				\vdash		\vdash	-	_	-	-	-	-	_	_	-	-	\vdash	\vdash		\vdash
A 225490 世界遺産論(留) 2 0						\square	$\vdash \vdash$	-		<u> </u>	-	ٽ ا	_	\cup		<u>-</u>	-	\vdash			\vdash
R65525 イングリッシュ・リーディング I					_		igwdown	-	\cup	\square	\square	\square	\cup		\cup	\square			\square		
R65525 イングリッシュ・リーディング I		科	225490		0			2									-				0
R65820 イングリッシュ・リーディング II ○ 1 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○			R65525	イングリッシュ・リー <u>ディング</u> I			L]	1					0	0			応	L			
1 285010 プログラミング基礎演習 0 2 0 0 0 0 0 基 0			R65820	イングリッシュ・リー ディング Ⅱ		0		1	0	0	0	0	0	0	0	0					0
B 285020 情報 デザイン 0 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	l⊟ l					\cap		2	\cap	\cap	\cap	\cap	-	-	(0)	\cap		\cap			
R35030 W E B 基 ○ 1 ○<						\vdash	\vdash	-	_	-	_	-	_	_	_	-		Ť	\vdash		Н
R35030 W E B 基		目			\vdash		\vdash			-	-		_	-	-	-	-			\vdash	
R25805 経営リーダーの知恵に学ぶ 〇 2 〇 0 0 0 0 0 0 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0						Н	\vdash	-	_	-	-	_	-	-	-	-	-	\vdash	\vdash		\vdash
					_		Щ	-	_	_	-	-	_	_	-	-	-		Ļ	\Box	Ш
R65840 キャリアビルディングのためのマーケティング ○ 2 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○				経宮リーダーの知恵に学ぶ	-		Щ	-	_	\Box	\Box	\square		\Box	\cup	<u> </u>	-		\bigcirc		Ш
			R65840	キャリアビルディングのためのマーケティング	0			2	\circ	0	0	0	0	0	0	0	発		0		

							_													
				授:	業租	11 图		ビ	経	シ	オ			プ	メ	科				
		コ				実	単	ジ	///土:	3	フ			口	デ	17	開	講	年	次
	区					験	'		理	プ	7	観	留	グ	イ	目				
		1		講	演	•	, l	ネ		~	`				ア	_	<u> </u>	_		
			授 業 科 目			実	位	ス	١.	ネ	ス			ラ	デ	の	1	年	2	年
	分			 ,,		習			金	ジ	ワ	光	学	111	ザ	区	1			7
	<i>))</i>	ĸ		義	習		数	情	기스.	メ]	ノレ	7	ン	ا ر ا		前	後	前	後
		,				実技		報	融	ン	ク			グ	1	分	期	期	期	期
-		00=111	ble I	 		172		_		٠		_		_	/	V/r-a	291	791	<i>79</i> 1	791
	ピ	265114	ビジネス能力	0			2	0	\circ	\circ	0	\circ	0			資	ш			\cup
	ジ	315125	デスクワーク入門	0			2	0								資	Ш	\circ		L
		315131	デ ス ク ワ ー ク 演 習		\circ		1	0								資		\circ		
	科ネ	315141	ビジネスマナー入門A				2	0								基	0			
	ス	315141	ビジネスマナー入門B				2		0							基	\Box	0		
	情	225145	人事のしくみ	0			2	0								応	\Box		0	
専	報	225150	現代ビジネス事情	Ō			2	0								発	\square			
一守	l 🖂 📗	225171	データ分析演習	+			1	0								発	\vdash			
	= =			\vdash	\vdash		-	_							\vdash	-	$\vdash\vdash$			<u> </u>
1	1	R65180	事務職のためのAI活用(VBA)				2	\bigcirc								発	$\vdash\vdash$			0
	ス	315185	M O S 実 践	0			2	\bigcirc								資	$\vdash \vdash$		0	_
		285190	オペレーションズリサーチ	0			2	\cup	0					0	0	発	ш			0
1	経	R65232	商業簿記	0			2		0							資	Ш	\circ		<u> </u>
1	理	225245	中 級 簿 記	0			2	\circ	0	\circ	0	0	0	0	0	発			0	$oxed{oxed}$
門門	科•	245247	上 級 簿 記	0	\mathbb{L}^{-}		2	0	0	0	0	0	\circ	0	0	資				0
' '		225235	工 業 簿 記	0			2	0	0	0	0	0	0	0	0	発			0	
	金	225241	原価計算論	0			2	0	0	0	0	0	0	0	0	資	П			0
	融	225261	金融経済入門	10			2		0							基			0	
	目コ	R35271	F P 基 礎 論	Ō			2	\cap	0	\cap	\circ	\bigcirc	\cap			資	\cap			
	1	R35765	PC 経 理 実 務	0			2	$\overline{\bigcirc}$	0		0	0	\circ			応				
	ス	305280	F P 実 践	10			2			_		_			\vdash	資	$\vdash\vdash$		0	\vdash
				-					\cup	0		0	0				$\vdash\vdash$		_	_
教	シ ت ع	225325	マーケティング論	0			2			0						応	$\vdash\vdash$		0	
	ッ	265300	マーケティング戦略論	0			2			0						発	Ш			\cup
	1 7	255385	消費者行動論	0			2			0						応	ш		0	L
	マス	265350	ショップ マネジメント論				2			0						基		\circ		L
	ネ	225360	広告デザイン論				2			0					\circ	応				0
	科 ^ジ メ	275310	商品・販売企画論	0			2	0	0	0	0	0	0			応				0
	eν	R65830	ファッション販売論	0			2			0						基	\circ			
	۱ ۲	R65835	ファッションコーディネート演習	<u> </u>	0		1			0						応			0	
育	- }-	R65405	ビジネスマナー演習	1			1	\cap	\cap	0	0	\cap				基		\bigcirc		
	그オ	225400	コミュニケーション総論	0			2	$\overline{}$		$\overline{}$	0					基	H			
	フ	265600	- N 書 ビ ジ ネ ス 論	0			2				0					資	\vdash			
	1 1			\vdash			-	_							\vdash	_	$\vdash\vdash$	-		\vdash
1	スス	R65440	オフィスワーク演習	+			1				0					応	$\vdash\vdash$		\circ	\vdash
	科リ	225445	オフィスプレゼンテーション	 	0		1	\bigcirc	0	0	0	0	0	0	0	応	$\vdash\vdash$		0	
	科	265455	現代社会コミュニケーション論	$\stackrel{\circ}{\vdash}$	_		2	\bigcirc	0	0	0	0	0	0	\bigcirc	発	$\vdash \vdash$		0	_
科	目 ク	235465	組 織 心 理 学	0	_		2	0	0	0	0	0	0	0	0	発				0
117		225470	言語表現とコミュニケーション	0			2				0					基	0			L
	観	225475	観 光 概 論	0			2					0	0			基			0	$ldsymbol{ld}}}}}}$
	光	225495	観光ビジネス論	0	L		2					0	0			応				0
1		225500	ホスピタリティー論	0			2					0	0			応			\circ	
	ビ	315510	イングリッシュ・コミュニケーション	0			2						0			基	0			
1	ジ	315515	観 光 英 会 話	Ť	0		1					0	0			基	\Box		0	
1	ネ	R55520	イングリッシュ・プレゼンテーション	T	0		1					0	0			応	Н			
目	ス	315540	オ ー ス ト ラ リ ア 研 究		\vdash		2					0				基	$\vdash \vdash$		0	\vdash
				+-			-						0						$\overline{}$	\vdash
1	コ、	315540	オーストラリア研究(留)	0	-		2						_		\vdash	基	\bigcirc			\vdash
	1	225545	旅程管理特講	0	_		2	_	_			0	0		_	資			0	\vdash
	ス	225555	観 光 地 理	0			2					0	0			資	-			\vdash
	科	315775	旅 行 業 約 款	0			2					0	0			資	\circ			<u> </u>
1		315780	旅行業法	0			2					0	0			資	0			$ldsymbol{ld}}}}}}$
L	目	R25810	国 内 旅 行 実 務	0			2					0	\circ			資	\bigcirc			

	Г	ı		+100	坐口	6 PH				8.1	. 1			0	_}					$\overline{}$
	区	コ		技	業 租 	実験	単	ビジ	経理	ショッ	オフ・	観	留	プロバ	メディ	科目	開	講	年	次
		1	授 業 科 目	講	演	実	位	ネス	•	プマネ	イス	邦儿	Ш	グラ	アデ	n の	1	年	2	<u>—</u> 年
	分	K		義	習	習・	数	情	金	ジメ	ワー	光	学	ミン	ザ	区	前	後	前	後
		'				実 技	200	報	融	と	ク			グ	イン	分	期	期	期	期
	コ観	225570	実 用 英 会 話 I (R)				2						\circ			基		\circ		
	〕光	225575	実 用 英 会 話 Ⅱ (R)	0			2						0			応		0		
	スビス、	225585	実 用 英 作 文 (R)	\circ			2						0			基		0		
	レンコ	225590	時 事 英 語 (R)	0			2						0			応		\circ		
専	科ネ	225535	比 較 文 化 (R)	0			2						0			発		0		
	目ス	225595	海外ボランティア演習(R)		0		1						\circ			発		開講	せず	ō
		R55675	プログラミング応用演習		0		1							0		応		0		
	情	R55680	組み込みプログラミング演習		0		1							0		応		0		
門	113	285615	Javaプログラミング 演 習		0		2							0		応			0	
11	±n	285625	L i n u x	0			2							0		基			0	
	報	285640	ゲーム デザイン	0			2							0	0	応			0	
		R35645	社会人のためのAI活用入門	0			2							0	0	応				0
	メ	R55815	社会で役立つプログラミング思考	0			2							0	0	応				0
教		285650	基 本 情 報	0			2							0		資	0			
	デ	285655	情 報 処 理 シ ス テ ム	0			2							0		資	0			
		285660	プロジェクトマネージメント	0			2							0		資		0		
	1	285665	システム開発	0			2							0		資		0		
		285670	情報セキュリティ	0			2							0		資		0		
育	ア	R25675	I o T		0		2							0		応				\circ
		R25785	プロジェクト実践Ⅰ	0			2							0	0	基	0			
		R25790	プロジェクト実 践 II		0		2							0	0	基		0		
	コ	R25795	プロジェクト実践Ⅲ	0			2							0	0	応			0	
科		R25800	プロジェクト実践 IV		0		2							0	0	発				\circ
17	[[285700	デ ザ イ ン 論	0			2								0	基	\bigcirc			
		285705	コンピュータ基礎	0			2							0	0	基	\circ			
	ス	285715	ビジュアルコミュニケーション	0			2								0	基		0		
	[285720	映 像 表 現	0			2								0	応				0
目	科	285740	データ 活 用	0			2	\circ	0					0	0	応			0	
	71-17	R35035	C G 基 礎		0		1							0	0	基	0			
	_ [285745	C G 理 論	0			2								0	資		0		
		285755	C A D 概 論	0			2								0	応			0	
		285760	WEBプログラミング	0			2							0	0	応			0	
	- ↓	233700	日 本 語	0			2									基	0	\circ		
	本語 科目	233705	日 本 事 情 I	0			2									基			0	
L		233710	日 本 事 情 Ⅱ	0			2									基				0
				•			-	_	_	_			_	_	_	-				

注1 コース・フィールド名の欄に◎が付いている科目は、そのコース・フィールドに所属している学生にとって必修。

注2 コース・フィールド名の欄に○が付いている科目は、そのコース・フィールドに所属する学生は選択可能。 しかし、授業運営上、人数制限することがある。

Ⅳ 教 育 課 程 表

生活プロデュース学科

2024年度入学生

生活プロデュース学科 教育課程表(2024年度入学生)

		I						_ /				医.	■ 400	必修	専	ーナ				
		コ		<u> </u>	業種	実	単	ア	フ	ン	ど	療	<i>y</i>	. 社	菛	ン	開	講	年	次
	区			⇒韭	淀	験		ッツ		テリ	£	事	ディ	任社会	科	バ	\vdash			\dashv
		1	授業科目	講	演	実	位		1	ア	サ	務	カ	用福			1	年	2	年
1	分			ا مد	বব	習		ン		デザ	1		ルク	資祉	の	リ				
	,,	ド		義	習	実	数	日	ド	ィ	F.	情	ラー	主	区		前	後	前	後
						技		ン		ン	ス	報	7	***	分	グ	期	期	期	期
	必	22LA00	日本語リテラシーI				2	0	0	0	0	0			基	110	\bigcirc			
1]	修	22LA02	日 本 語 リ テ ラ シ ー Ⅱ	\circ			2	0	0	0	0	0			基	110		\circ		
	科	R6LA04	情報リテラシー(データサイエンス入門)				2	0	0	0	0	0			基	110	\circ			
	目	22LA08	生 涯 ス ポ ー ツ と 健 康 I			0	1	0	0	0	0	0			基	110	0			
ベ	群	22LA10	生 涯 スポ ーツと健 康 Ⅱ			0	1	0	0	0	0	0			基	110		0		
		R5LA50	湘 北スタートアップ セミナー	0			1	0	0	0	0	0			基	110	\circ			
ラ		R5LA15	ビジネスに役立つ教養とDX				2	0	0	0	0	0			基	110		0		0
	選	R6LA60	社会生活のための基礎知識	0			2	\circ	0	0	0	0			基	110		0		\circ
ル		31LA70	日本語コミュニケーション	0			2	0	0	0	0	0			発	130			0	
		22LA24	現代社会と倫理				2	0	0	0	0	0			応	120			0	
ア	択	22LA26	社 会 と 環 境	0			2	0	0	0	0	0			応	120		0		0
		25LA35	メ デ ィ ア 論 A	0			2	0	0	0	0	0			発	130			0	П
I , [25LA35	メ デ ィ ア 論 B	0			2	0	0	0	0	0			発	130		0		0
	科	31LA75	ファッション文化論	0			2	0	0	0	0	0			応	120		0		0
		R6LA01	日本の食文化	0			2	0	0	0	0	0			発	130		0		0
ツ		R6LA03	住 環 境 デ ザ イ ン				2	0	0	0	0	0			発	130		0		0
	Ħ	R6LA07	体験から学ぶ身近な心理学				2	0	0	0	0	0			発	130		0		0
科		R6LA09	いのちをめぐる科学技術				2	0	0	0	0	0			発	130		0		0
177		R6LA11	湘北リベラルアーツⅠ				2	0	0	0	0	0			発	130	0		0	\Box
	群	R6LA13	湘北リベラルアーツⅡ				2	0	0	0	0	0			発	130		0		0
目		R3LA80	暮らしの中のテクノロジー	Ō			2	Ō	Ō	Ō	Ō	Ō			応	120		Ō		Ō
		R3LA85	SNS とダイバーシティ	Ō			2	Ō	Ō	Ō	Ō	Ō			応	120		Ō		Ō
		26GC01	ジェネラル・イングリッシュI		0		1	0	0	0	0	0			基	210	0	_		
	玉	26GC02	ジェネラル・イングリッシュⅡ		Ō		1	0	0	0	0	0			基	210	Ť	0		П
	_	26GC20	エッセンシャル・イングリッシュ	П	Ō		1	Ō	Ō	Ō	Ō	Ō			応	220			0	П
ľ.	際	26GC40	アドヴァンス・イングリッシュI		Ō		1	Ō	$\overline{\bigcirc}$	0	Ō	Ō			発	230			Ō	П
"	/11	26GC41	アドヴァンス・イングリッシュ I		Ō		1	Ō	Õ	Ō	Ō	Ō			発	230				\circ
Ŧ	理	30GC50	T O E I C (初級)A				1	$\overline{\bigcirc}$		0	Ō	0			資	240		0		Ō
		30GC50	TOEIC(初級)B		Ō		1	Ō	Ō	Ō	Ō	Ō		П	資	240		, 捐講	せす	22
f	解	30GC51	T O E I C (中 級)	П	Ō		1	Ō	0	Ŏ	Ō	Ŏ			資	240				П
	"	R6GC60	海外研修				2	$\overline{\bigcirc}$	0	0	$\overline{\bigcirc}$	0			発	230	0		$\overline{\bigcirc}$	Н
#	科	R6GC70	中国語(基礎)	\vdash			1	$\overline{\circ}$	0	Ō	0	0			基	210	Ĕ		$\overline{\bigcirc}$	\vdash
		R6GC06	中国語(実践)		0		1	Ŏ	Ŏ	Ö	0	Ŏ			応	210	П	開講	11 1	22
	目	R4GC71	韓国語	\vdash	Ō		1	Ŏ	Ō	0	0	Ö			基	210		714 H11	_ /	
	, .	R4GC90	ベーシック・ビジネス英語	0			2	$\overline{\circ}$	0	0	0	0			発	230				0
シ	·1	26IS02	春季インターンシップ(長期)			0	2	0	0	0	0	0			応	320	Н	\bigcirc		$\overline{}$
	'ン	26IS04	春季インターンシップ(短期)		Н	0	1	Ŏ	Ō	0	Ō	Ō			応	320		0		Н
	[°] タ - 1	26IS05	インターンシップリテラシー		Н	Ĭ	1	Ŏ	Ŏ	0	0	Ö		Н	基	310	Н			\vdash
	- ン	30IS06	インターンシップティーチング	Н		\vdash	1		0	0	0	0		\vdash	発	330				0
H		R5BU01	私のキャリアデザイン	0			2	0	_		0		0	Н	基	410	0			
戸	扰	26BU02	キャリアベーシック(SPI)		\vdash	\vdash	2		0	0	0	0	\vdash	H	基基	410	\vdash	0		H
د	чк	R5BU05	私の就職活動プランニング	Н		\vdash	1	$\frac{0}{0}$	0	0	0	0	\vdash	\vdash	虚応	420				\vdash
1	業	26BU04	キャリアブラッシュアップ		\vdash	\vdash	2	$\frac{0}{0}$	0		0	0	\vdash	\vdash	発	430				
-	力	30BU06	基礎教養のための数学演習	Н		\vdash	1	$\frac{0}{0}$	0	0	0		\vdash	\vdash	基基	410				Н
		R5BU10	生事に役立つPC演習(基礎)A	Н		\vdash	1		0	0	0		\vdash	\vdash	基基	410	\vdash		0	Н
7	育	R5BU10	仕事に役立つFC 演習 (基礎) B	\vdash		\vdash	1		0		0		\vdash	\vdash	基基	410	\vdash			
,	.b	R5BU07	仕事に役立つPC演習(応用)A	Н		\vdash	1	$\frac{0}{0}$	0		0		\vdash	Н	左応	410	\vdash		0	\vdash
^t	戎	R5BU07	仕事に役立つPC演習(応用)A 仕事に役立つPC演習(応用)B	\vdash		\vdash	-		0		0		\vdash	\vdash	応応	420				\vdash
₹	科	R3BU07			Н	\vdash	2	_		_	0	0	\vdash	\vdash	<u>心</u> 資		\vdash			0
						\vdash	-	0	0	0	_	-	\vdash	$\vdash\vdash$		440				Н
	目	R6BU09	PC 活 用 ベ ー シ ッ ク I	\vdash		\vdash	1	0	0	0	0	0	\vdash	$\vdash\vdash$	基	410	0			$\vdash\vdash$
Щ		R6BU11	PC 活 用 ベ ー シ ッ ク I I			l	1	0	\cup	\cup	0	0			基	410		0		

生活プロデュース学科 教育課程表(2024年度入学生)

				120	W 11	110			_	- 2	7	17r	2/10° 4-61	N 16	亩					
		コ		1文	業種	_	単	7	7	ン	子ど	医療	貨船	心修	専門	ナ	開	講	年	次
	区					実験	平	ア	_	テ	E E	事	デ	任 社	科	ン				
		1	授業科目	講	演		位	ツ	l i	リア	サ り	著 務	イ カ	会 用 福	目	バ	1	年	2	年
		' I	1文 未 行 口			実習	11/.	シ	l '	デ	ľ	155	ñ		りの	IJ	1	+		+
	分	¥		義	習		数	3	ド	ザ	ビ	情	クラ	資祉 主	区	ン	前	後	前	後
		' I				実 技	90	ン	l	イン	レス	報	1	格事	分	ゲ	期	期	期	期
\vdash		R52025	ライフスタイルマネジメントの基礎			1.	2	0	0	0	0	0	ŕ		基	510	0	774	//4	///
==	共	R42880	生 活 と SDG s	6			2	0	0	0	0	0	\vdash		基基	510			-	Н
専	通	R52890	<u> </u>	\vdash	\vdash		2	0	0	0	0	0	\vdash		基	510		0	\dashv	Н
l	业	302045	ライフキャリアプランニング	\vdash			1	0	0	0	0	0	-		基	510			-	Н
門	修修	262515	オフィスワーク演習	\vdash			1	0	0	0	0	0			基基	510			-	Н
		302035	ゼミナール I	6		0	2	0	0	0	0	0	\vdash		基基	510		\vdash	0	Н
教	科	302040	ゼ ミ ナ ー ル II	6	0		1	0	0	0	0	0	┢		応	520			\vdash	0
	目	R52045	ライフスタイルマネジメント	<u> </u>		$\overline{}$	2	0	0	0	0	0	Н		応応	520	\vdash	\vdash	-	
育	共	222095	ラッピングコーディネート演習				1	0	0			0	—		基	510	0			
	通	302505	現代女性の社会学	6			2		0	0		0	\vdash		基	510	\vdash		0	$\vdash \vdash$
科	選	222445	サービス介助演習A	\vdash			1		0				\vdash		<u>坐</u>	540	\vdash		\vdash	$\vdash \vdash$
	択	222445	サービス介助演習B	\vdash			1		0			0	\vdash		資	540	\vdash	\vdash		
目	科	242387	接客サービス特講	6			2		0						応	520				\vdash
		R52895	SDGs と 社 会 デ ザ イン	6	\vdash		2		0			0			応応	510				\vdash
		252050	色 彩 学 A	0			2	0		0			_		基	510	\circ			
		252050	色 彩 学 B	6			2						Н		基基	510	\vdash		\circ	Н
		222090	ファッション販売論	6			2	0	0		0	0	Н		基基	510	\bigcirc		\Box	Н
		282085	パーソナルカラー入門	\vdash			1		0			0	-		基	510				Н
	専	R62055	テキスタイルの基礎	6			2	0	0		0		┢	\vdash	基基	510			-	Н
		R62910	メ イ ク 理 論	6			2	0	0		0	0	Н		資	540				Н
		222060	子供服と小物の演習	\vdash	0		1	0	0	0		0	_		基	510	\vdash			Н
		222070	ファッションデザイン論	6			2	0	0	0		0	Н		基基	510	Н			Н
		282660	ファッションビジネス論	6	\vdash		2		0	0		0	H	\vdash	心	520	H			Н
	門	312680	ブライダルコーディネーション I	0			2		0	0	0	0			資	540				Н
		312115	アパレルメイキング演習	\vdash	0		1			0		0	_		応	520		\vdash	0	Н
		222135	ファッションコーディネート演習	\vdash			1		0	0	0	0			応応	520			0	Н
		R22065	ファッションデザイン演習	\vdash	0		1				0		Н		基	510			0	Н
	教	282665	ファッションと心理	6			2			0		0	\vdash	\vdash	虚応	520	H		\vdash	
	叙	R22710	アパレル企画論	<u> </u>			2						\vdash		応応	520	\vdash		\vdash	\overline{a}
		222145	ファッションプロデュース	\vdash			1	0	0	0	0	0			発	530				\overline{a}
		222130	リビングケア	0			2	0		0			Н		基	=10			\neg	
		312155	ブライダルコーディネーション Ⅱ	0			2	$\overline{\bigcirc}$	0	0	0	0	Н		資	540	Н		\dashv	0
	育	R32160	食生活と健康	6			2	$\frac{\circ}{\circ}$	0		0	0		\vdash	基	510	0		\neg	\vdash
		232165	クッキング I A	\vdash		0	2	\vdash	0		\vdash				基基	510			\neg	\vdash
		232165	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	\vdash			2	0	۳	0	0	0			基基	510			\neg	\vdash
		282170	フードコーディネート基礎	6		\vdash	2			0		0	Н		基基	510			\dashv	\vdash
		R22180	栄養学	6			2		0	0	0	0	\vdash		基	510	\vdash		\neg	-
	科	232215		Ť	\vdash	0	2	$\frac{\circ}{\circ}$	0		0			\vdash	虚応	520			\neg	\vdash
		262620	食 空 間 プ ラ ン ニ ン グ	6	\vdash		2	$\widetilde{}$	0	0	Ť	Ť			応応	520			-	Н
		312185	健 康 科 学	6	\vdash		2	$\overline{\circ}$	0	0		0	\vdash		基	510			\neg	\vdash
		R62915	食の情報発信	0	\vdash		2		0	0	0	0	\vdash	\vdash	応	510			\neg	\vdash
	н	282650	食空間コーディネート	\vdash			1	\vdash	0	0	\vdash			\vdash	資	540		\vdash	0	\vdash
	I	R22715	ライフステージと食物	6			2	0	0	0		0			応	520				\vdash
		262220	食 の 企 画	\vdash			1		0		0	0		\vdash	応応	520				\vdash
		R22205	食品 と調理	6	\vdash		2	$\frac{\circ}{\circ}$	0		0			\vdash	基	510				
		222225	食品衛生学	6			2	$\frac{\circ}{\circ}$	0			0		\vdash	基基	510			\neg	Ĭ
		222200			_			\sim		\smile				_	∠E3	010				

生活プロデュース学科 教育課程表(2024年度入学生)

Right Ri		П		1-70	W 11	1103				- 2	7	Ι Γ	2/10 4-la	N 160	古	,				
Parison Pa		_,		按	来性	-	114	フ		ン	子	医皮	_	-	専	ナ	開	講	年	次
日本学科	区						平	ア	_				デ	任 社		ン				
下 で			極 类 幻 日	講	演	•	I.L.	ツ	۱ ا				1	会		バ	1	/T:	۱ ۵	/T:
### 222250 インテリア計画 ○ 22250 インテリアコーディネーション I ○ 1 1 ○ 2 ○ 3 本		'	按 耒 枓 ㅂ				11/	シ	'		יי ו	務	ル			IJ	1	平	4	平
## 222250 インテリアコーディネーションI	分	l to		義	羽	•	*/-	3	l.	ザ	1-11	桂	クラ			ン	ਜ	谷	ਜ	後
R52255				1 7~	-		奴	_	「				ĺ	格虫						
R52255		000050		\vdash		技	0	_	_	Ľ	$\hat{}$	羊収	ク	7	-		-	791	791	791
R52900		-		\vdash		\vdash			_		_	-	\vdash		-		<u> </u>		_	⊢
R62905		-		₩						\sim	$\overline{}$				-		<u> </u>		_	\vdash
R52280 福 化 住 環 境 入 門 〇 1 〇 〇 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		-		├	-			\cup	\cup	_	0				-		$^{\circ}$			⊢
R52280 編 社 住 環 境 人 門 ○ 1 1 ○ ○ ○ ○ ○		-		<u> </u>	\cup		-				_	_					_	-		⊢
Record	市	-		+-	_				-				_		-		_	-	_	<u> </u>
Bell	- 17-			$ \bigcirc $	_	Ш	1		0	-					-			-		<u> </u>
Page 262630		-		┞	L -		1	\vdash	l –	L -		<u> </u>			-			Ľ.		$ldsymbol{ldsymbol{ldsymbol{eta}}}$
円 242310 ディスプレイ・収納計画演習 ○ 1 0 ○ 0 ○ 0 ○ 5 520 ○ 0 ○ 5 52		262640		╙	0		_	\circ	0	_	0	0			-			0		
円 262245 環 境 と 暮 ら し ○				10	$ldsymbol{ld}}}}}}$		2		<u> </u>				$ldsymbol{le}}}}}}$		-				<u> </u>	oxdot
Page		\vdash		$oxed{igspace}$		Ш	1	\circ	<u> </u>	l –	$\stackrel{\smile}{-}$		$ldsymbol{ld}}}}}}$	Ш	-				0	$oxed{oxed}$
R6285 子 と も と 福 祉 ○ 2 ○ ○ ○ ○ 5 510 ○ R5 10 ○ R6285 子 と も と 福 祉 ○ 2 ○ ○ ○ ○ ○ 5 510 ○ R6270 子どものワークショップ演習 I ○ 1 ○ ○ ○ ⑤ ○ 基 510 ○ R5 510 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	押	\vdash	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	ٽ			2	\circ	0	0	0				-					0
Re2370	' '	222390	キッズスペース論	0			2	\circ	0	0	\circ	0			-	510	0			
 R62370 子どものワークショップ演習 I ○ 1 ○ ○ ○ ○ ○ 基 510 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		R62885		0			2	0	0	0	0	0			-	510	0			$oxedsymbol{oxed}$
数		222410	心理学	0			2	0	0	0	0	0		0	基	510	0			L
数 222380 チャイルドケア論 2 0 0 算 540 0 262365 自己理解の心理学 2 0 0 基 510 0 252365 創作絵本の制作 本の制作 1 0 0 基 510 0 252360 子どものワークショップ演習Ⅲ 0 1 0 0 0 発 530 0 R62415 子どものワークショップ演習Ⅲ 0 1 0 0 0 発 530 0 R62920 子どものワークショップ演習Ⅲ 0 1 0 0 0 発 530 0 R62920 子どものワークショップ演習Ⅲ 0 1 0 0 0 発 530 0 R62920 子どものワークショップ演習Ⅲ 0 1 0 0 0 基 510 0 22155 発達 心 理学 0 2 0 0 0 基 510 0 312860 家族援 勘 論論 0 2 0 0 0 基 510 0 82815 医療事務(メディカルクラーク) II 0 2 0 0 0 査 540 0		R62370	子どものワークショップ 演 習 I	Π	0		1	0	0	0	0	0			基	510	0			
262365 自 己 理 解 の 心 理 学 ○		R62375	子どものワークショップ 演 習 Ⅱ		0		1	0	0	0	0	0			基	510		0		
1 262365 自 己 理 解 の 心 理 学 ○	教	222380	チャイルドケア論				2				0				資	540		0		
Page		262365	自己理解の心理学				2	0	0	0	0	0			基	510		0		
Page		252385	創作絵本の制作		0		1	0	0	0	0	0			基	510			0	
R62415 子どものワークショップ演習Ⅲ ○ 1 ○ ○ ○ ○ ○ 発 530 ○ ○ R62920 子どものワークショップ演習Ⅳ ○ 1 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 発 530 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		252360		0			2	0	0	0	0	0			応	520			0	
R62920 子どものワークショップ演習 IV ○ 1 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		R62415			0		1	0	0	0	Ō	0			-	530				Г
育 222355 発達 心 <td理学< td=""> 2 ○ ○ ○ 基510 ○ <</td理学<>		R62920		t	Ō		1	$\overline{\bigcirc}$	Ō	0	$\overline{\bigcirc}$	$\overline{\bigcirc}$				530			Ť	
Parity	育				Ť		2	-	_	-	0	$\overline{\bigcirc}$	Т		-					Ō
R52800 京 族 接 助 論 ○ 2 ○ ○ ○ ○ ○ ○ 基 510 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ □ □ □ □ ○ ○ ○ ○ ○				Ť			-	-	Ť		_									Ō
R52800 ヘルスケア業界研究 〇 2 〇 0 0 0 基 510 〇 0 R2810 からだのしくみと機能 ○ 2 ○ 0 ○ 0 0 0 基 510 ○ 0 0 E 510 ○ 0 0 0 E 510 ○ 0 0 0 E 510 ○ 0 0 0 0 E 510 ○ 0 0 0 0 0 E 510 ○ 0 0 0 0 0 E 510 ○ 0 0 0 0 0 0 E 510 ○ 0 0 0 0 0 E 510 ○ 0 0 0 0 0 E 510 ○ 0 0 0 0 0 0 E 510 ○ 0 0 0 0 0 E 510 ○ 0 0 0 0 0 0 E 510 ○ 0 0 0 0 0 E 510 ○ 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		$\overline{}$		\Box				_		\cap		\cap	Н	\cap	-	_	Н			5
科				-	\vdash			-	-	-		_	Н		-					Ĕ
R22810 からだのしくみと機能 ○ 2 ○ ○ ○ ○ 基 510 ○ □ 日本語 科目 ○ 312870 からだのしくみと機能 ○ 2 ○ ○ ○ ○ ○ □ 基 510 ○ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □				\vdash				\vdash	\vdash			-	\vdash				<u> </u>		\vdash	\vdash
R52815 医療福祉関連の接遇とコミュニケーション 〇 1 〇 〇 〇 ○ ○ 基 510 〇 ○ ○ 312820 医療事務 (メディカルクラーク) I 〇 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○					\vdash	\vdash		\bigcirc			\cap		\vdash	\vdash	-		-		\vdash	\vdash
Single 1997 19	科			\vdash		\vdash	1	\mathcal{C}	-	-			\vdash		-		-		\vdash	\vdash
R52875 医療事務(メディカルクラーク) II 〇 2 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇					\vdash	\vdash	2	$\overline{}$	<u> </u>				\vdash				\vdash		\vdash	\vdash
R52875 医療事務(メディカルクラーク) III ○ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □		\vdash		l ă	\vdash		-	_	-		-		\vdash					_		\vdash
B		$\overline{}$		_	\vdash	\vdash			_		-	_	\vdash	\vdash		_	\vdash	-	\vdash	\vdash
1312840 医療				-	\vdash	\vdash	-	_	_		-	-	\vdash	\vdash	-		\vdash	-	\vdash	0
312850 医療事務コンピュータ演習 I ○ 1 □ ○ 資 540 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	_	-		_	\vdash	\vdash			_		-	-	\vdash				-	\vdash		\vdash
312855 医療事務コンピュータ演習 II	Ħ			\vdash					\vdash		\cup	-		\vdash			-		<u> </u>	\vdash
R32860 診療報酬基礎 日本語 日本語 日本語 日本語 日本語 日本				\vdash		\vdash		\vdash	\vdash	\vdash		-	\vdash			_	\vdash	\vdash	\vdash	
312835 公 衆 衛 生 ○ 2 ○ ○ ○ ○ ○ ○ 応 520 312870 ケアマネジメント概論 ○ 2 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ □ 応 520 日本語 科目 233705 日 本 事 情 I ○ 2 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □		-		\vdash	_	\vdash	-	Н	<u> </u>	\vdash		-	\vdash		_			\vdash	\vdash	
312870 ケアマネジメント概論 ○ 2 ○ ○ ○ ○ ○ ○ 応 520 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		-		<u> </u>	\square	\vdash	-					-	\vdash		-		<u> </u>		\square	<u> </u>
日本語 科目 233700 日 本 語 ○ 2 - - - -				-	\vdash				_			_	\vdash	\cup					_	
日本語 科目 233705 日 本 事 情 I 〇 2 1 1 - 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1				-			-	\cup	\cup	\cup	\cup	\cup	\vdash		心	520	_			
科目 233705 日 本 事 情 1 0 1 2 1 1 1 1 1 - 1 1 1	日本語			+-		Щ			<u> </u>	\vdash			<u> </u>		\vdash					\vdash
[233710] 日 本 事 情 Ⅱ [○] [2] 				-	$ldsymbol{ldsymbol{ldsymbol{eta}}}$	Щ	-	_	<u> </u>	\vdash		Щ	\vdash	Ш	$oxed{oxed}$		<u> </u>	$ldsymbol{ldsymbol{ldsymbol{eta}}}$		\vdash
		233710	日 本 事 情 Ⅱ	10			2													

Ⅳ 教育課程表保育学科

2024年度入学生

保育学科 教育課程表(2024年度入学生)

				/ / /	業種	記目			資	\$ \$	各		4 1				
		コ		1×:	// 19	実	単		H	i i	社		科	開	講	年	次
ı	区			⇒± :	جس ا	験	'	必	幼	保	会	選	目				\dashv
		Ì	授業科目	講	演	実	位		稚	育	福		\mathcal{O}	1	年	2	年
l	分		22 712 11 11		l	習	,	修	園	士	祉主	択	区		_		
ı	73	ド		義	習	実	数		' '		事	かく		前	後	前	後
						技			必	必	必		分	期	期	期	期
ア リ 	必修	22LA02	日本語リテラシーⅡ	\bigcirc			2	\bigcirc		\bigcirc			基		\bigcirc		
- ベ ツ 科	選択	R4LA50	湘 北スタートアップ セミナー	0			1					\bigcirc	基	\bigcirc			
目ル	送扒	22LA24	現代社会と倫理	\bigcirc			2			\triangle		\bigcirc	応			\bigcirc	
国队	祭理解	26GC10	英語		0		2	\bigcirc	0	\bigcirc			基	\bigcirc	0		
	科目	R6GC60	海 外 研 修			\bigcirc	2					\bigcirc	発				
	業力育	30BU06	基礎教養のための数学演習		0		1					\bigcirc	基	\bigcirc			
	科目	26BU02	キャリアベーシック(SPI)		0		2					\bigcirc	基		0		
	建体育	233100	体 育 実 技 / 理 論	0		\circ	2	\bigcirc	0	\bigcirc			基	\bigcirc	0		
1	斗目	233105	日本国憲法	0			2		0	\bigcirc			基	\circ			Ш
	基専	R63115	保育のためのICT・DX入門 I		0		1	\bigcirc	0	\triangle			基	\bigcirc	0		
	礎門	R63120	保育のためのICT・DX入門 Ⅱ		0		1	\bigcirc	0	Δ			基			0	0
		303121	現代の人間関係分析	0			2			Δ		\bigcirc	基	\bigcirc		Ш	Ш
専		233125	社 会 福 祉	0			2	0		0	0		基	0			Ш
,,	目	313135	子 ど も 家 庭 福 祉	0			2	0	<u> </u>	0	0		基	0		$ldsymbol{ldsymbol{ldsymbol{eta}}}$	Ш
	的	233140	保 育 原 理	0			2	0		0	\circ	_	基	\circ	_		Ш
	ΗÜ	313145	社 会 的 養 護 I	0			2	\bigcirc		\circ		_	基		0		Ш
	理	233150	教 育 原 理	0			2	\circ	0	\circ		_	基	\circ			Ш
пп		313160	教 職 概 論	0			2		0				基			0	
門	解	233162	保 育 者 論	0			2	\circ		\circ			基				0
		313610	教育の制度と経営	0			2		0	_			基				0
	* +	313175	保育の心理学	\cup			2	\bigcirc	0	\bigcirc		_	基	\circ			Ш
	対	313180	子どもの理解と援助		\cup		1	\bigcirc	_	\bigcirc		_	応立		$ \bigcirc $		Ш
	象	313615	子ども家庭支援の心理学	0	_		2	_	_	0		_	応		_	0	\square
教	300	313185	子どもの保健	0	_		2	_	_	\bigcirc		_	基		_	0	
	理	313190	子どもの健康と安全			\bigcirc	1		_	\bigcirc		_	応せ				0
		233195	子どもの食と栄養		\cup	\cup	2		_	\bigcirc		<u> </u>	応				0
	解	313200	子ども家庭支援論	\bigcirc			2		_				心		_		\bigcirc
		233205	青年心理学	0			2					\cup	発				0
育		313155	保育・教育課程論	0			2	\bigcirc	0	\bigcirc		_	基		0		$\vdash\vdash$
		313210	保育内容総論		\bigcirc	_	2	_	$\frac{1}{2}$	\mathbb{H}	\vdash	<u> </u>	基	\cup	0		
	内	233215	健康の指導		\bigcirc		1		0	\bigcirc		_	応				0
		233220	環境の指導		\bigcirc	_	1		\bigcirc	\bigcirc	_	<u> </u>	応	0	0		
	索	233225	人間関係の指導	_	\bigcirc	_	1	_	0	\mathbb{R}	\vdash	\vdash	応		\vdash	\circ	0
₹ N	容	233230	言葉の指導表現の指導		0		1		0			_	応	0	_		$\vdash\vdash$
科		233235				\vdash	1		\bigcirc	\bigcirc	\vdash	\vdash	応応		\vdash	0	$\vdash\vdash$
		313620 313625		-			2	\bigcirc	\vdash	\circ	\vdash	\vdash	心応	0			$\vdash\vdash$
		233245		_	\cap	0	1	-	\vdash	\mathbb{H}	\vdash	\bigcirc	<u></u>		\vdash		0
		313250	 特別支援教育(障害児保育を含む)		0	\vdash	2	-	0		_	\vdash	完 応	\bigcirc	0		\vdash
	方	313255	社 会 的 養 護 Ⅱ	\vdash		_	1	-	\vdash		\vdash	\vdash	心応	\vdash	\vdash	0	$\vdash\vdash$
目	//	233265	表現の指導(造形)				-	_	\vdash			\vdash	発	_	\vdash		$\vdash\vdash$
		233270	型		\vdash		2		\vdash	\mathbb{H}			発発	F.	 児 詳	せす	2
	法	233275		0	\vdash		2		0	Ш		\cup	光応		用研	<u>~</u> 9	\vdash
	14	313280		0	\vdash		2			\vdash		\vdash	応応	_	\vdash	\bigcirc	$\vdash\vdash$
		313285	<u> </u>	\vdash			1					_	心応		-		\bigcirc
	I	010200			\cup		Ţ			\cup		_	ᆘᄓ				

保育学科 教育課程表(2024年度入学生)

								授	業種	訠			貨		各		科	闘	講	任	%r
	区	コ								実験	単	必	幼	保	社会	選	目	J71)	P円	-	<i>ν</i>
ı		Ì		授	美業科	¥ 目		講	演	実	位		稚	育	福		0	1	年	2	年
ı	分			*	· // /			بعد	777	習		修	康	士	社主	択	区	77:			
	73	ド						義	習	実	数		心必	必	事	100	分	前期	後期	前期	後期
\vdash		313295	造	TÉ	3	= :	邛田			技	9			1	必	H		期	期	期	期
	基	R23300	<u>垣</u> 造	 形	<u> </u>	_ <u>表</u> 現	現_ Ⅱ	\vdash			2	\cup	\cup		\vdash		基応	\cup			
専		313305	 坦 身			 表		\vdash	$\frac{1}{2}$		2				_		基				\vdash
7	礎	R23310			<u>*</u> 実	衣 技	現 I	\vdash	$\frac{1}{6}$		2	$\frac{1}{2}$			_	\vdash	基基	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{6}$		\vdash
	技	R23305	<u></u> 身	 年	<u>夫</u> 表	<u>t</u> 又 現	$\frac{1}{\prod}$	1			1				\vdash				\vdash		
門		313320				 表	<u></u> 現				2		\cap	\vdash			心心				\cup
	能	R23325	<u>---</u> 音		· 実	<u>-衣</u> 	<u>────────</u> ∐	\vdash			2	_		H	\vdash		発	\Box			
	総合演	233400			実践演	*	生園)				2		\cap				資	H			
教	44	263500	教			実	習			\bigcirc	4		\bigcirc			\vdash	応			\cap	
		263505		育		 習 指	 				1		\bigcirc		\vdash		基			$\overline{\bigcirc}$	Н
→	/==	233510	 保		望 I	· 保育	<u>所)</u>		Ĭ		2			\bigcirc			応				\Box
育	実	233515	保	育 実	 習 I		設)			\bigcirc	2			$\overline{\bigcirc}$			応		$\overline{\bigcirc}$		
		233520	保	育		指導			0		2			Ō			基	0	Ō		
科		233525	保	育	実	習	II			0	2			0		0	発				0
	習	233530	保	育 身	そ 習	指導	П		0		1			0			基			0	
		233535	保	育	実	習	III			0	2					\bigcirc	発				0
目		233540	保	育 舅	[習	指 導	Ш		0		1					\bigcirc	基			0	
	その他	R33600	保	育	実	践研	究		0		2	\bigcirc					発				\bigcirc
	CANIE	233605	進	路 •	生	活指	導		0		1						発			\bigcirc	0
	本語	233700	月		本		語	0			2										
	平 目	233705	月	本	事	情	I	0			2										Ш
,1	. H	233710	月	本	事	情	Π	\bigcirc			2										

注1:保育士資格を取得するには、□科目から2単位以上選択必修。

◎科目(2科目)または■科目(2科目)から3単位以上選択必修。

△科目(4科目)から2単位以上選択必修。

注2:リベラルアーツ科目については、2単位以上取得すること。

数理・データサイエンス・AI 教育推進ワーキンググループ設置要綱

(設置目的)

第1条 湘北短期大学(以下「本学」という。)は、本学学生に広く実施され、学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成するために必要な知識及び技術を体系的に修得させる教育プログラム(プログラム名称「湘北 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」。以下「当教育プログラム」という。)を全学的に推進するため、数理・データサイエンス・AI 教育推進ワーキンググループ(以下「WG」という。)を設置する。

(所管事務)

- 第2条 WG は、次の業務を所管する。
 - (1) 当教育プログラムの具体的な内容に関する協議・検討
 - (2) 当教育プログラムの計画 (当教育プログラムにおいて身に付けることのできる能力、 修了要件、開設される授業科目、授業の方法、及び内容等)の策定並びに実施体制の 構築、及びそれらの公表
 - (3) 学生に対し当教育プログラムの履修を促す取組の協議・検討、及び実施
 - (4) 当教育プログラムについての点検及び評価、その結果の公表 その他、当教育プログラムに関して学長が求める事項
- 2 前項による業務は学長に報告するものとする。なお、当教育プログラムに関して重要な決定又は変更を伴う場合には、学長は教授会及び常勤理事会に諮問するものとする。

(構成員)

- 第3条 WG は、次に掲げる者で構成する。
 - (1) リベラルアーツセンター長、及び教務・学生部長
 - (2) IR 室長
 - (3) 各学科長から指名された教員 3名程度
 - (4) 教務・学生部職員 2名程度
 - (5) その他、必要に応じて各学科長、各センター長から指名された教員 若干名
- 2 WG に責任者及び副責任者を置き、それぞれリベラルアーツセンター長、教務・学生部 長をもって充てる。

(会議)

- 第4条 WG は、責任者が召集し、議長を務める。
- 2 WG は、年2回定期的に開催するほか、必要に応じて臨時に開催する。
- 3 責任者が必要と認めるときは、構成員以外の者に会議への出席を求め、説明又は意見を 聞くことができる。

(事務局)

第5条 WG の事務局は、教務・学生部とする。

(補則)

第6条 この要綱に定めるもののほか、WG の運営に必要な事項は学長が別に定める。

附則

1 この要綱は、2024 年4月1日から施行する。

数理・データサイエンス・AI 教育推進ワーキンググループ設置要綱

(設置目的)

第1条 湘北短期大学(以下「本学」という。)は、本学学生に広く実施され、学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成するために必要な知識及び技術を体系的に修得させる教育プログラム(プログラム名称「湘北 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」。以下「当教育プログラム」という。)を全学的に推進するため、数理・データサイエンス・AI 教育推進ワーキンググループ(以下「WG」という。)を設置する。

(所管事務)

- 第2条 WG は、次の業務を所管する。
 - (1) 当教育プログラムの具体的な内容に関する協議・検討
 - (2) 当教育プログラムの計画 (当教育プログラムにおいて身に付けることのできる能力、 修了要件、開設される授業科目、授業の方法、及び内容等)の策定並びに実施体制の 構築、及びそれらの公表
 - (3) 学生に対し当教育プログラムの履修を促す取組の協議・検討、及び実施
 - (4) 当教育プログラムについての点検及び評価、その結果の公表 その他、当教育プログラムに関して学長が求める事項
- 2 前項による業務は学長に報告するものとする。なお、当教育プログラムに関して重要な決定又は変更を伴う場合には、学長は教授会及び常勤理事会に諮問するものとする。

(構成員)

- 第3条 WG は、次に掲げる者で構成する。
 - (1) リベラルアーツセンター長、及び教務・学生部長
 - (2) IR 室長
 - (3) 各学科長から指名された教員 3名程度
 - (4) 教務・学生部職員 2名程度
 - (5) その他、必要に応じて各学科長、各センター長から指名された教員 若干名
- 2 WG に責任者及び副責任者を置き、それぞれリベラルアーツセンター長、教務・学生部 長をもって充てる。

(会議)

- 第4条 WG は、責任者が召集し、議長を務める。
- 2 WG は、年2回定期的に開催するほか、必要に応じて臨時に開催する。
- 3 責任者が必要と認めるときは、構成員以外の者に会議への出席を求め、説明又は意見を聞くことができる。

(事務局)

第5条 WG の事務局は、教務・学生部とする。

(補則)

第6条 この要綱に定めるもののほか、WG の運営に必要な事項は学長が別に定める。

附則

1 この要綱は、2024 年4月1日から施行する。

大学等名	湘北短期大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	湘北数理・データサイエンス・AI教育プログラム	申請年度	令和7年度

プログラムの目的

学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データ サイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成すること

身につけられる能力

- 養、知識、技能を主体的に身につけ、日常の生活や仕事等の場で実践 現代社会において必要となる数理・データサイエンス・AIの基礎的素 的に活用することができる
- るとともに、これらを活用するにあたっては、公平性・公正性の観点を 数理・データサイエンス・AIの知識、技能の恩恵を享受できるようにな 常に持ち、人間中心の適切な判断や説明ができるようになる

開講科目

- 情報リテラシー(データサイエンス入門)」
 - 1年次前期必修科目
 - 2単位
- オンデマンド授業
- 保育のためのICT・DX入門II) 2年次隔週通年必修科目

- 面接授業



実施体制

- ワーキンググループ」が以下の業務を所管し、 数理・データサイエンス・AI教育プログラム プログラムを推進する
- 当教育プログラムの具体的な内容に関する協議・検討
- おいて身に付けることのできる能力、修了要件、 開設される授業科目、授業の方法、及び内容 当教育プログラムの計画(当教育プログラムに 等)の策定並びに実施体制の構築、及びそれら の公表
 - 学生に対し当教育プログラムの履修を促す取 組の協議・検討、及び実施
- 当教育プログラムについての点検及び評価、そ の結果の公表

修了要件

(データサイエンス入門)」の 総合ビジネス情報学科及び 単位取得を要件とする 生活プロデュース学科 →「情報リテラシー



- 保育学科
- →「保育のためのICT・DX入門II」の 単位取得を要件とする



《その他補足資料》 令和6(2024)年度 自己点検・評価結果

湘北短期大学WEBサイトに掲載

https://www.shohoku.ac.jp/aboutus/mdash.html

湘北数理・データサイエンス・AI教育プログラム 令和6(2024)年度 自己点検・評価結果

湘北短期大学 数理・データサイエンス・AI教育推進ワーキンググループ

	国の意数・評価の記点	ロワ重象・背面を見ってりの時代・客様・交加「同じた受験4
林内	学内からの視点	
7	プログラムの匯格・修得状況	教理・データサイエンス・A教育推進ワーキンググループおよび教務・学生類において本プログラムの襲後・単位修得状況を分がしている。考和各権投資を持続よび、機管生ジネス・機管学科および、生活プロデュース学科の学生が受講できる「情報リテシー(データサイエンス入門)」が終了している。単位修得率は87.9%(2007/231名)であった。このうち、開講期中末たは継後に体学もしくは選学した学生を膝くと単位修得率は88.5%(203/206名)となる。
1	学権成果	担当教員はLMSを通じて学生の進捗を常に把握しており、担当教員および教理・データサイエンス・A教育推進・フェンググループにおいて本プログラムの職権・単位等等状況を分析している。「情報リテラ・・・データサイエンス入門」は、全1回(動画・課題提出・グラルを含むと944人) チャー・のオンディンド科目であり、LMSへのログイン状況、動画閲覧状況、課題提出状況を教育が第一年のアンディンド科目であり、LMSへのログイン状況、動画閲覧状況、課題提出状況を教育が第一年のアンディンド科目であり、LMSへのログイン状況、動画閲覧状況、課題提出状況を教育・バテストをお保設ト、テストをかり下しない。のレクティーに進めない仕様としているため、全レクティーに取り組入だ学生は一定の学修成果を有していると考えられる。
計区	学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	教務・学生間において本教育プログラム受講者全員に対して授業改善アンケートを実施している。 また、リイクルアーツセンターにおいて、オンテマンド科目の受講スタイルに関するアンケートを実施している。数理・データサイエンス・A教育権進ワーキングリループにおいて各アンケー・結果を分析している。 分析している。 分析している。 分和している。 有和6年度の「精製リテラ・イデータサイエンス人門)」においては、授業改善アンケートの設備 「この授業の目的とする知識や技能、考え方が身についたか」この授業を通じて自分が以前より 成長できたか」において、経験解析で育定的な意見が、それぞれの改善を超える結果となった。 の自己評価として、各自が内容を理解できたと考えられる。
計 型	学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度	令和6年度の「情報リテラシー(データサイエンス入門)」の授業改善アンケートの設問「授業の内容に原表で表してあったか」において、884の自定的な意見が得られた。後輩等への推奨住る直接を示していた。その学生に取って理修する価値のある内容として受け入れられたと考えられる。
44년	全学的な薩修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況	本教育フログラムを構成する「情報リテランー(データサイエンス入門)」およむ「保育のためのICT・DX入門1」は、各学科の卒業要件に含まれる必修科目として開講している。
本件	学外からの視点	
教児	教育プログラム修了者の進路、 活躍状況、企業等の評価	本教育フログラムを修了した学生が卒業するのが令和7年度末が初めてとなり、進路についても今後判明する状況である。
種ブ	産業界からの視点を含めた教育 プログラム内容・手法等への意見	本学卒業生がターゲットとする試験先の内、事務職やSEはもしより、人と人とのコミューケーション が重要視される接客業や保育の現場においても、本プログラムの学権内容が重要視されている。 過去の来店データに基く(関係との対面コミューケーションの円場が化や、年間七ンサーを利用した 圏別の安全確保など、質の高いサービス提供の事例が増えつつある。生成AI関連技術の急速な 発展しば視しつシー学生にとって有益な情報を提供できるようログラムの内容を、教理・データサイエンスへ私教育推進ワーキンググループにおいて継続点核する。
業業のよう	整理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しよ」「学ぶことの意義」を理解させ ること	本教育フログラムは、各学科必修科目のみで構成されており、もともと関係を持っていない学生も一定教育主た。そのため、産業界からのはまだけでなく、学生目録の身近でも教りばめて、教理・データサイエンス・AIに関する知識やスキルを自然と理解できるようが授業を展開している。結果として上述した複数の設問において肯定的な意見が得られたと考えられる。
をかって	内容・水準を維持・向上しつつ、より 「分かりやすい」授業とすること	オンデマンド科目においては、影楽配料的級から学みのインストラグショナルデザイナーに協力を何き動画制作や課題設定を構成した。受講スタイルに関するアンケートから、オンデマンド形式に同しているのの言語的な意見が得ったが、要素を書つて一十年では一番が高くが、本教育コログラム以外の授業内容、スタイルも参考にし、分かりやすどの観点から授業はよびコグラムを、教理・ナージサイエンス、も数育措施ローキンググループにおいて継続系統をある。